

関東学院 学報

KANTO GAKUIN NEWS No. 33 2007.3



第43回全国大学ラグビーフットボール選手権大会

大学ラグビー部、早大破り王座奪回 「エンジヨイ・ラグビーで雑草に花が咲く」

10年連続決勝進出 6度目の大学日本一に

2007年1月13日、国立競技場、快晴。対戦相手は早稲田大学。6年連続の同カードである。2年連続敗戦の雪辱を晴らすステージが整った。3万1954人の大観衆。しかし、その大半が早大の応援で、専門家の予想でも早稲田有利、三連覇との呼び声が高かった。その逆風の中での関東学院の快勝に春口廣監督の目指すエンジヨイ・ラグビーの真髄を観た。

大学選手権10年連続決勝進出、記念すべきその節目に見事優勝した本大学ラグビー部の大活躍を過去のデータも加え、読者と振り返り喜びを分かち合いたい。



時間	関一早	得点者	プレー内容	G
9分	7-0	吉田	敵ラインアウト奪い回してラックからT	○
21分	14-0	朝見	敵ラインアウトのミスを拾い40メートル独走T	○
29分	21-0	山下	素早く右に展開して数的優位に立ってT	○
35分	21-5	首藤	攻撃リズム速めて矢富パス受け左スミT	X
37分	21-12	菅野	敵キックを五郎丸拾い右パス50メートル独走T	○
前半	21-12	早大	ラインアウトをことごとく関東が奪って加点	
5分	28-12	朝見	左ラックから右展開で抜けて40メートル独走T	○
24分	28-19	菅野	敵キックを拾って展開し2人かわしてT	○
40分	33-19	朝見	左ラックで奪った吉田から受け50メートル独走T	X
45分	33-26	今村	中央突破でT。五郎丸G後にノーサイド	○
後半	12-14	風上	早大は要所で攻めきれず関東が逆襲し加点	
合計	33-26	関東	はFW戦で優位に立ち、全員ラグビーで勝利	

まず、今回の決勝戦を振り返ってみよう。この得点経過表は、『日刊スポーツ』からの転載だが、今回の優勝記事は、新聞各紙、スポーツ専門雑誌に詳しく掲載されているので、ここでは、主に春口監督と選手たちのナマの声をできるだけ多く取り上げた。

春口廣監督の話

「ここまで本場に長かった。うれしいの一言。選手たちはいつも通り自信をもってプレーし

本望です。先輩たちの頑張りで、ここまで来られた。来年もまた頂点に立ちたい」

雑草に花が咲いた

竹山君（FL）の言葉

「相手に能力のある選手がそろっているのなら、自分たちは努力するしかなかった」「いままでの早大戦ではターンオーバーされるばかりだったのが、その反対だった。精度が高く、速さのあるプレーに一番驚いたのは僕ら自身だった」

高副主将（バックスリーターCTB）の言葉
「基本のまた基本を繰り返した。まるでラグビーを習いたての子どもたちのようだった」「土台をしっかりつくったことで、選手もチームも簡単に崩れなくなった。地に深く根をはった結果、僕は優勝という花を咲かせられたんです」



田中副主将（HO）の言葉
「最後の最後まで地面にはい、草のにおいをかぎながら汗を流した。正直、こんな練習で大丈夫かという思いはあった」「普通にやれば簡単に決勝まで行けるという思いがあった。9年連続決勝進出という歴史と「カントー」の名前に酔いしれていた。ここまでの道のりをすべて自分たちで築き上げたと勘違いしていたことに気づいた」

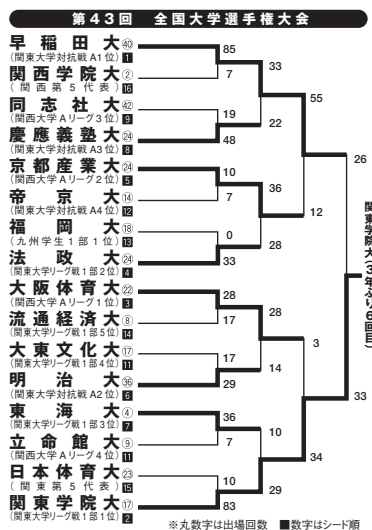
155人の部員の気持ちを一ひとつにした寄せ書き

「神奈川新聞」松島佳子記者の文章をお借りしよう。

若山宗平主務の言葉
「もつとできるはずなのに何でやらないんだ。中途半端な気持ちで臨むなよ。」
その手には部員の思いの丈がつづられた寄せ書きが握りしめられていた。「お前ら本当に優勝する気あんのかよ」

リーグ最終戦で法大に敗れ、気を引き締めて再出発を誓ったはずの全国大学選手権。だが、煮え切らない試合は続いた。
「155人の部員全員の気持ちが一つにならないければ、勝てない。裏方をまとめるだけではなく、監督と選手のパイプ役でもあった若山主務は頂点に立つことの厳しさを誰よりも知る春口監督の嘆きを耳にして、寮の選手たちの部屋を回った。手には縦1横2の布があった。

100人近くの部員がベンを走らせた。「死ぬ気でサポートする」「お前らの後ろには150人がついてる。行ってこい」。そして、こうあった。「おれはお前らのためだったら何でもする。でも勘違いするな。おれは日本一になりたいんだ」
寄せ書きを手を荒らげる若山主



てくれた。ラインアウトを徹底的に練習してきたが、ここまでうまくいくとは思わなかった。この子たちに会えて本当によかった。チーム全員でつかんだ勝利」
「10年連続で決勝に進み、節目で勝たせてもらった。この選手たちと一緒にラグビーができて幸せ。早大の出来が悪かったのではない。うちの出来が良かったから、優勝できたのだと思う。FWがまず1メートル前へ。そうすればバックスは、その勢いで走れる。学生がその言葉を信じて一生懸命やってくれた」
「早稲田の出来は関係ない。自分たちの出来が最高だった。ラグビーをやってきて本当に幸せ」

敬意を表して早大の中竹竜二監督の話も引用する。

「ラインアウトで負けた。前からプレッシャーがかかっている、思うようにボールが動かせなかった。接点の強さも想像以上でリズムに乗れなかった。決勝はどちらかが自分のスタイルでできるかにかかっていたが、自分たちにはそれができなかった。」

ONE FOR ALL, ALL FOR ONE

「空中戦制圧」「二本柱」「ラインアウトで勝った」と西君と北川君という190センチを超える長身の選手がクローズアップされるが、その二人をタイムリング良くリフティングする

務の姿に主将のS吉田は「何のために自分たちはここでラグビーをしているのか。大切なことを思い出させられた」。関東学院大に進んだのは日本一になりたいからではなかったか。であるならば、いかなる試合もその目標にふさわしい内容が伴わなければならないはずだ。まとまりを欠きながら、勝ち上がることで問題を目を向けてこなかった自分たちを叱じた。

2日の大体大との準決勝。そこには張りつめた空気の中、全力を出し切る選手の姿があった。

そして迎えた13日の決勝「早大の出来が悪かったわけではない。うちの仕上がりが万全だった。だからいいゲームができると思っていた」。勝因を問われ、指揮官はそう強調した。関東学院大のロッカー室には、あの寄せ書きが張り出されていた。

早大との全国大学選手権決勝。勝負の行方を大きく左右するプレーが起きたのは、2812と関東学院大のリードで迎えた後半16分。パスミスから受けたカウンターだった。ボールが早大の快足トライゲッター首藤に渡る。左タッチライン沿いをそのまま駆け上がればトライだ。その刹那、振り切られたかに映ったH0田中が、体勢を崩しながら懸命に右手を伸ばす。指先が、足先をかすめた。首藤がもんどりをうって早大の反撃のチャンスがついえたとき、勝負の帰趨は決した。

春口廣監督は「執念だった」と、紙一重のプレーに精神の高まりを見た。田中は「練習でもやったことのないプレー」と見えざる力を感じていた。
味方のミス身ををいしてカバー

■関東学院大学 決勝出場スターティング・メンバー

背番号	氏名 (学部/学年/高校)	ポジション	センチ	キロ
1	西垣 友博 (経済/3年/東山)	PR	177	108
2	田中 貴士 (経済/4年/大工大)	HO	172	103
3	原田 豪 (経済/2年/佐賀工)	PR	181	115
4	西 直紀 (経済/3年/佐賀工)	LO	196	93
5	北川 勇次 (経済/2年/大阪桐蔭)	LO	194	105
6	大野 潤滋朗 (人環/4年/熊本西)	FL	176	87
7	竹山 浩史 (経済/4年/大島)	FL	175	85
8	土佐 誠 (経済/2年/尾道)	No.8	186	95
9	吉田 正明 (経済/4年/大工大)	SH	164	66
10	藤井 亮太 (経済/4年/佐賀工)	SO	166	80
11	中園 真司 (経済/3年/佐賀工)	WTB	171	73
12	高山 国哲 (人環/4年/啓光学園)	CTB	175	80
13	櫻谷 勉 (経済/4年/伏見工)	CTB	180	82
14	朝見 力弥 (経済/3年/正智深谷)	WTB	170	75
15	山下 祐史 (経済/4年/大工大)	FB	175	80



する。その精神の大切さを春口監督はあらためて思い知らされた。1年前の決勝。早大に541と大敗し、泣き崩れる主将で大黒柱のFB有賀剛（現サントリ）の肩を抱きながら、春口監督は自責の念を感じていたという。「1人の力に頼るチームづくりをしてしまった。15人の力がなくては勝てない」と痛感した」

24歳で監督に就任した1974年当時、関東大学リーグ3部の所属で部員はわずか8人、グラウンドにゴールポストはなかった、常勝の冠を頂くまでになった現在、全国からは有望な選手が集まり、部員数は150人を超えた。だが名声の陰に忘れかけていたものがあった。

関東大学リーグ戦得点王に輝いた3年生のWTB中園が言う。「FWは後ろにいる選手のことを考えて少しでも前でプレッシャーをか

選手がいなければ、効力を発揮できない。それだけではない。「全員之力」と北川君本人が言う。レギュラー以外のメンバーは対抗戦グループの試合に通い、早大を研究。キックオフ直後とラインアウトに弱点を見いだした。この日、前後半ともに関東学院大が最初トライを奪い、早大のラインアウト12回のうち、成功はわずか3回。得点差以上に完勝だった。155人の部員でレギュラーは、15人、試合当日の控え選手を含めても22人である。縁の下力持ちがいなければ10年連続で決勝に進み、6度の優勝はありえない。

学生たちの言葉を続けよう。

吉田主将の言葉

「同じSHでも、（早稲田の）矢富は1人でぐいぐいボールを持って行くタイプ。でも自分はFWとBKをつなぐ軸の役割。みんなが最高の力を発揮し、FWが守備で重圧をかけたからこそ、矢富を止めにくかった。」

田中副主将（FWリリー）の言葉

「うれし涙を流したのは初めて。初めてこんなにチームがまとまった。最後にやっと一つになった。こんなにうれしうことはない」

朝見君（WTB）の言葉

「三つ（のトライ）とも周囲のおかげ。自分前に進むことしか頭にありませんので。すごい舞台で、すごい相手に、全員の力で勝てた。」

関東学院学報 No.33 <目次> CONTENTS

第43回全国大学ラグビーフットボール選手権大会優勝1

学院長就任挨拶 森島牧人先生5

関東学院史展示会開催6

【関東学院創立125周年記念事業報告】
横浜のキリスト教主義学校教育シンポジウム7

国際シンポジウム
「大航海時代の光と影」8

『シーボルトコレクション植物画集(仮称)』出版プロジェクト・中学校高等学校新棟の起工式9

関東学院の建学の精神と伝統文化展・
日韓国際シンポジウム10

関東学院の源流を探る—2511
レイモンド・P・ジェニズ博士
(アメリカ・バプテスト宣教師・本学教授・大学宗教主任)

建学の精神を生きる「OBに聞く」15
(株)ニコン社長／荻谷道郎さん

法科大学院トピックス17
新司法試験合格者インタビュー／井上佳子さん

ユニークな授業18
渡辺えり子先生・吉原高志先生
「アジアの遺伝子を吸収して」

詩のコンテストとエッセイコンテストの開催・
ビジネスプラン・コンペティション2006が開催19

公開講座Topics20
詩人・小池昌代さん

学院役員・教職員人事21

関東学院創立122周年記念式挙行・
キリスト教教育活動他報告22

関東学院各校NEWS・編集後記24

主な学校行事予定(4月～9月)29

【カバー・ストーリー】

関東学院中学校高等学校 O.C.C.ハンドベルクワイアについて

O.C.C.とは「Olive」オリーブ、「Chora」賛美歌・合唱、「Coterie」仲間、の頭文字で、関東学院の合唱する仲間たちという意味があります。30年ほど前に導入したハンドベル演奏活動が今では中心となっているが、クリスマスと入学式における合唱活動も行っている。ハンドベルは教会から生まれた楽器で、天使のハーモニーとも呼ばれる。クリスマスや創立記念礼拝などの学内演奏活動、地域や施設などからの依頼演奏の他、毎年開催される全国大会、関東フェスティバル、隔年で開催される世界大会にも参加している。2006年夏、オーストラリア世界大会に参加。



KGU Retakes College Crown


The Rugby Club team of Kanto Gakuin University beat Waseda University 33-26 in the final of the 43rd University Championship at the National Stadium on January 13, 2007.

KGU Coach Hiroshi Haruguchi said, “We have been to the final for 10 straight years but this was our best performance. The line-outs went completely as planned. The forwards caught the ball and then went forward a meter or so, so our backs were always on the front foot.”

Kanto’s recent success has been built on a 10-man approach. But on this day, its

文責・写真◎瀬沼達也

執筆というより引用・構成と表現した方が相応しい記事となりました。記事の抜粋引用、データ使用させていただいた日本ラグビーフットボール協会と新聞各社、特に、神奈川新聞社、日刊スポーツ、(株)ベースボール・マガジン社、NPO法人横濱ラグビーアカデミー各社・団体にこの場を借りて謝意を申し上げます。



関東学院創立125周年記念ロゴ・デザイン
2009年に関東学院は、1884年、横浜山手に創立の横浜バプテスト神学校から数えて125周年を迎えます。2009年は横浜開港150周年の年でもあり、同年を一つの目標として学院事業を展開して行きます。これを記念して「創立125周年記念ロゴ」を制作しました。

大野潤滋朗（F/L/S/H）
1〜3年まで、なんのブレッシヤもなくて来たが、4年になってからは色々な面でブレッシヤがかかってきた。でも、家族が応援してくれていたことが何よりの助けになったと思う。優勝したこともあるが、今思うと4年のみんなと一緒に来たことが一番嬉しかった。
竹山浩史（F/L/S/H/W/T/B）
奄美大島からきて4年間一生の仲間と思いができました。本当に4年間応援してくださってありがとうございました！ ぜひみなさん奄美に遊び

players showed they could also play the old Kanto 15-man game in front of 31,954 fans.
Professor Haruguchi’s coaching spirit is to enjoy rugby. Not only the 15 starting members, but also the rest of the 140 students supporting these regular team members enjoyed rugby. That is the reason KGU was able to retake the college crown and why Haruguchi-sensei said, “Weeds have just flowered!” in his TV interview.
Many graduates from KGU are regular members on each team in the Rugby Top league. Many also have been nominated as delegates from Japan for the 6th World Cup to be held in France this year.
藤井亮太（S/O）
4年で最後早稲田に勝って優勝できた事、もう最高です！ ホント部員全員の勝利だと思います。みんなとKGUで一緒にラグビーできてホントによかったです！ 幸せです！ そしてファンのみならず、関係者のみなさんにホントに感謝します！ ありがとうございます。KGU最高！ みんな大好きです！
櫻谷勉（C/T/B）

にきて下さい！ 島民全員でもてなします。
山下祐史（F/B）
4年目に試合に出れて、国立でトライもできて優勝もして最高の形で終わることができました。怪我で試合に出られない人の代表としてグラウンド

に立ったし、4年間一緒に生活してブレリーしてきて仲間のためにも恥ずかしいブレリーはできないなと思いました。この優勝は本当に部員全員で勝ち取った優勝だと思っし、色んな人の想いがたくさん詰まった優勝だと思います。最後になりますが、春口先生はじめ関係者の皆様には本当に感謝しています。何より関東学院に進ませてくれた親には本当に感謝しているし、怪我ばかりして心配かけたけど親孝行できたかなと思います。本当に関東学院に来てよかったなあと思います。
(全コメントはNPO法人横濱ラグビーアカデミー発行の「横濱ラグビーマガジン」(No.6)からの引用)

吉田正明（S/H/主将）
関東学院に入ってよかったと思います。特に監督コーチがとてつもない指導をしていたのでここまでこれたと思っています。あとい仲間に出会いに来てよかったです！ 本当に関東学院にきてよかったです！
4年ラグビー部員(決勝出場スターティング・メンバー)の優勝後のコメント

田中貴士（H/O/副将）
一番つかった年が四年目でした。生まれて初めてバイスカプテンを任せられ、俺に出来るのか不安で仕方なかったです。俺が一番助けられた奴は石田だった。俺に代わってまごめてくれたり、ライントアウトを全部研究してくれて最後の最後まで早稲田のラインアウトを見てくれていました。潤滋朗 タケ、佐伯、兎玉、有賀 タケン、戸高：みんなそれぞれの役割で一生懸命頑張っていて、

最後に国立に立たせてくれてありがとう!! 最高のフォワード最高の4年!! 最高のKGU!! 一生の宝物になりました。ジャンボと豪 最後までついて来てくれてありがとう☆
高山国哲（C/T/B/副将）
4年間振り返ってこの1月13日が一番嬉しい日でした！ 怪我で悩まされた大学生活でしたが優勝したことですべてが報われました！ 試合に出ら

れなかった4年生が泣きながら「ありがとう」と言ってくれたことほどの喜びはありません！ “仲間のために戦う”ってこう言うことなんだと身にしみて感じました！ 最高の仲間に出会いました☆☆自分を支えてくれた家族や部員、ファンの方々に感謝の気持ちでいっぱいです！ 後輩たちにも自分たちと同じ優勝を勝ち取ってもらいたいです！

氏名	選出日本代表種類
竹山浩史	2007年度7人制日本代表
中園真司	2007年度7人制日本代表
土佐 誠	2006年度U-23日本代表
重見彰洋	2006年度U-23日本代表
村下雅章	2006年度U-19世界選手権日本代表

2006年度の成績 (団体)	
関東大学リーグ戦1部優勝	
関東大学ジュニア選手権大会優勝	

らなかつた。教える立場の指導者が、ラグビーに教えられ、学生に教えられました。」
このような謙虚な精神の監督を持つラグビー部は仕合せだ。10年連続で決勝進出、6度も大学日本一のチームに学生たちを育てた春口監督の言葉は、重い。驕ることなく地に足のついた歩みをすれば、その結果として必ず優勝回数も増えてゆくことになる。

■大学ラグビー優勝回数

① 早稲田大	13
② 明治大	12
③ 関東学院大	6
④ 同志社大	4

け、ハーフはBKにつなぐためにボールを回し、BKはボールをつないでくれたみんなのために走った。当たり前と言えばその通りかもしれない。でも、それがこの数年はできていなかった」
春先の走り込みでは、レギュラーも控えも関係なく汗を流した。グラウンドの雑草刈りも上、下級生と一緒にやって行った。30余年前、ラグビー部創成期の原風景に重なる。
13日、歓喜のお立ち台で春口監督は「スターはいらない」と言った。思えば殊勲の田中も、2年前の早大との決勝では、スローワーとして敗戦につながるミスを犯していた。2年続けて決勝で早大に喫した苦杯もまた、関東学院大の歴史の血肉となっていたのだ。
10年連続で決勝に進み、うち優勝は6度。この10年では、早大の優勝回数の倍となった。

（以上、神奈川新聞社の松島佳子記者の文章からの抜粋引用）
結びの言葉はやはり春口監督に絞っていた。優勝祝賀会の挨拶で祝勝会に出席したサポーターから「三連覇を目指して」の声援に、春口監督が応えた言葉が忘れられない。「三連覇なんてことを目標にする必要はない。毎年毎年一試合一試合に勝つことが大事」これは「スターはいらない。雑草に花が咲いた」と同じ源泉からの言葉である。
前年W杯日本代表キャプテンで、2007年日本代表スコッドでもキャプテンに選ばれた箕内拓郎さん（現NEC）が、KGUキャプテンで初優勝したときを思い出した春口監督の言葉、「24年間かけチームが強くなったことよりも、大学選手権の優勝よりも、部員全員の心がひとつになり、1人ひとり雑草だけど、花を咲かせ『お花畑』になったことがうれしくてたまらなかつた。教える立場の指導者が、ラグビーに教えられ、学生に教えられました。」
このような謙虚な精神の監督を持つラグビー部は仕合せだ。10年連続で決勝進出、6度も大学日本一のチームに学生たちを育てた春口監督の言葉は、重い。驕ることなく地に足のついた歩みをすれば、その結果として必ず優勝回数も増えてゆくことになる。

■大学ラグビー過去10大会の決勝成績

年	回	優勝校	スコア	準優勝校
1998	34	関東学院大	30-17	明治大
1999	35	関東学院大	47-28	明治大
2000	36	慶応大	27-7	関東学院大
2001	37	関東学院大	42-15	法政大
2002	38	関東学院大	21-16	早稲田大
2003	39	早稲田大	27-22	関東学院大
2004	40	関東学院大	33-7	早稲田大
2005	41	早稲田大	31-19	関東学院大
2006	42	早稲田大	41-5	関東学院大
2007	43	関東学院大	33-26	早稲田大



2007年度ラグビー日本代表スコッド選出関東学院大学卒業生・学生一覧

2007年2月5日に2007年度のラグビー日本代表スコッドが発表されました。FW(フォワード)27名、BK(バック)26名、計53名ですが、そのうち9名が関東学院大学の卒業生と学生でした。箕内拓郎さんは、再度キャプテンに選ばれました。本年は、4年に1度開催される第6回ラグビーW杯が、フランスで行われます。この皆さんが同大会に出場され、大活躍されますよう声援しています。

Position	氏名	所属	年齢(学年)	出身校	身長cm	体重kg	生年月日	キャップ
HO	山本 貢	三洋電機ワイルドナイツ	25	関東学院大学	174	100	1981.5.12	5
PR3	山村 亮	ヤマハ発動機ジュビロ	25	関東学院大学	185	114	1981.8.9	29
LO4	北川勇次	関東学院大学	20(2年)	大阪桐蔭高校	194	105	1986.8.11	初
No8	箕内拓郎	NECグリーンロケッツ	30	関東学院大学	188	107	1975.12.11	31
CTB12	高山国哲	関東学院大学	22(4年)	啓光学園高校	175	80	1984.8.28	初
CTB13	霜村誠一	三洋電機ワイルドナイツ	25	関東学院大学	177	89	1981.9.20	2
WTB14	北川智規	三洋電機ワイルドナイツ	23	関東学院大学	175	80	1983.7.25	1
FB	立川剛士	東芝ブレイブルーパス	30	関東学院大学	181	90	1976.11.25	11
FB	有賀 剛	サントリーサンゴリアス	23	関東学院大学	175	85	1983.11.3	2

Kanto Gakuin 125th Foundation Anniversary Projects

For Kanto Gakuin 125th Foundation Anniversary Project, we will achieve our mission of Educational Enterprise based upon the foundation spirit under the slogan of "Toward a new step of Kanto Gakuin".

Main projects under consideration are as follows: compilation of Kanto Gakuin historical material for 125th commemorative publication, establishment of an institute for Kanto Gakuin historical material, enrichment of the educational promotion fund, establishment of a scholarship fund, contribution to society, promotion of international exchange projects, educational reformation at each school, modernization of campus and classroom equipment. In order to achieve those projects, two committees were established under the committee of the 125th Foundation Anniversary Project at the beginning of the 2006 academic year.

The success or failure of these projects is up to not only the power of Kanto Gakuin faculty members, but also the other members of the Kanto family including children, pupils, students and their parents and graduates of Kanto Gakuin. Kanto Gakuin hopes that support from all parties will ensure success of these projects.

関東学院史の展示会（第一回・第二回）が開催される

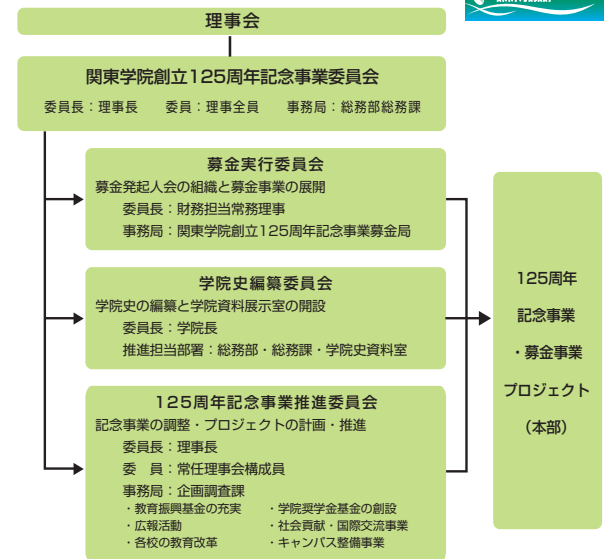
本学院は、2009年に創立125周年を迎えます。その記念事業の一環として、学院史の展示会を定期的に開催します。

第一回資料展として、「建学の精神を求めて」と題して、本学院の源流である、横浜バプテスト神学校の設立者であるA・A・ベンネットと、中学関東学院の初代院長である坂田 祐の関係資料を展示しました。(2006年9月21日(木)～10月11日(水)、大学金沢八景キャンパス、フォーサイト21・1階)



第二回展示会は、2007年1月17日(水)～2月14日(水)に第一回と同じ場所で、「建学の精神と奉仕教育活動」と題して開催された。

関東学院創立125周年記念事業の実施組織



関東学院の建学の精神と奉仕教育活動 —共生を目指して—

本学院は建学の精神であるキリスト教主義に基づき、学校教育を行い2009年に創立125周年を迎えます。その間、学院創設のモットーである「人になれ 奉仕せよ」を具現化するための教育や具体的な奉仕活動がなされて来ました。今回の展示会はそのひとつの活動であるタイでの奉仕教育活動について取り上げました。

タイでの活動は古都チェンマイから300キロの山岳地帯のチパレ地方に住む少数民族のカレン族にたいする国際ボランティア活動として行われてきました。活動は、1994年から開始され、2006年には奉仕教育活動の拠点として「関東学院サービスラーニングセンター」が完成し、12月31日に献堂式が行われました。(写真参照) これは10



関東学院創立125周年記念事業の基本コンセプト <関東学院125年の新たな一歩に向けて>

学院は総数約1万6千名の園児・児童・生徒・学生を擁する総合学園を構成しています。「学院はキリスト教の精神をもって建学の精神とし、『人になれ 奉仕せよ』を校訓に、人たるの人格をみがき、愛の精神をもって奉仕する、創造性豊かな人間を育成する」ことを使命(ミッション)としています(関東学院職制、坂田祐入学式辞より)。125周年記念事業は学院の教育使命を継承する事業であり、基本コンセプト<関東学院125年の新たな一歩に向けて>を掲げています。学院の有する固有の教育資源を取り上げ、【共生:奉仕教育・国際交流・総合教育力の向上】、【社会:生涯教育・教育相談・地域社会貢献事業】、【文化:文化活動の推進】、【健康:安全安心・健康・スポーツ】、【環境:環境にやさしいキャンパス創り】、【継承:建学の精神・一貫教育・校友同窓会組織との連携・強化】などの事業を展開し、学院のブランド力を高めていきます。

年以上にもわたって子供寮の支援活動が続けてきた六浦小学校をはじめ、大学でもその活動の発端を担った文学部、建物の設計を担当した工学部、広報を担当した経済学部、地道な交流活動を進めた人間環境学部等、全学院の力が結集されてきたものです。

ボランティア活動に参加した児童、学生、教職員は、現地の人たちとの交流を通して、特に、ひたむきに生きている子供たちから得がたい生命の息吹のようなものを与えられて、共生の精神を体感して帰国しております。

この展示会をとおして、関東学院の建学の精神、「人になれ 奉仕せよ」の校訓実践活動が更に広がることを願っております。

(第二回展示会の森島牧人学院長挨拶文)

「歴史の検証 伝統の継承」

学院長就任挨拶 森島牧人



略歴

森島 牧人／もりしままきと (1947年12月20日生)

学歴
1966年3月 関東学院高等学校卒業
1971年3月 東京神学大学神学部神学科卒業
1975年3月 東京神学大学院神学研究科組織神学専攻修士課程修了(神学修士)
1978年3月 東京神学大学院神学研究科組織神学専攻修士課程退修

職歴

1990年4月 関東学院大学文学部助教授 (1997年3月迄)
1990年4月 関東学院大学宗教副主任 (1993年3月迄)
1993年4月 関東学院大学宗教主事 (1998年3月迄)
1993年4月 日本バプテスト同盟会ヶ丘教会協力牧師 (1995年3月迄)
1995年度 米国Yale University Divinity School特別研究員
1997年4月 関東学院大学文学部教授 (現在に至る)
1998年4月 関東学院大学宗教主任 (2002年3月迄)
2001年4月 関東学院六浦小学校校長 (2004年3月迄)
2001年4月 学校法人関東学院理事・評議員 (2004年3月迄)
2001年7月 キリスト教と文化研究所所長 (現在に至る)
2002年4月 関東学院大学宗教主事 (2006年10月迄)
2002年4月 日本バプテスト同盟捜真バプテスト教会牧師 (現在に至る)
2002年4月 学校法人捜真バプテスト学園理事・評議員 (現在に至る)
2004年4月 学校法人捜真バプテスト学園理事長 (現在に至る)
2006年4月 関東学院大学院文学研究科修士課程指導教授 (現在に至る)
2006年10月 関東学院学院長 (現在に至る)
2006年10月 学校法人関東学院理事・評議員 (現在に至る)

関東学院は、今から122年前、横浜の山手にキリスト教の伝道者養成のために建てられた「横浜バプテスト神学校」を、その第一の源流とする学院であります。その最初の学生数は僅か5名でありました。しかし今や、二つの幼稚園、二つの小学校、二つの中学・高等学校、そして大学及び大学院を擁する、学生・生徒・園児総数16,192名、教職員総数1,912名の一大総合学院となりました。今、122年の歴史を振り返る時、神の御祝福の下、海外の諸教会およびキリスト者の物心両面にわたるお支えと、本学院の先達の献身的な努力がそこにあった事を覚え、心から感謝するものであります。

このような歴史と伝統のある学院の責任ある職を拝命するこの時、自らの器の小さき事を実感せずにおれません。まことに身のすくむ思いであります。祈りつつ全ては「主の用なり」との召命観に立ち、畏れつつ、この身に余る大役を受ける決意を致しました。

さて、私は「神学」を専門領域とする者であります。そして「組織」の人間であります。この言葉は奇異に聞こえるかもしれませんが、長い歴史を持つ「神学」は、その歩みの中で、必然的に大きく「聖書神学」と「組織神学」という二つの部分に区別されて行きました。例えば「新約聖書神学」とは、およそ二千年の昔に多くの人々に強いインパクトを与え、またその後の歴史に多大の影響を与え続けている聖書の真理を、キリストと呼ばれたイエスの言葉と行動の内に探求する学問であります。それに対して「組織神学」とは、これは射程距離の長い学問であります。一般的に言って、聖書神学が明らかにして行く真理に関し、二千年の昔にキリスト・イエスが人々に与えたと同じインパクトを、今日というコンテキストの中で実現するにはどのようなシステムが必要であるかを研究する学問であります。

この観点からするならば、私の学院長としてのミッションは、学院歌にもあります「創業の志」とその「熱情」を学院史の中に探求し(歴史の検証)、そのよき嗣業(ゆずり)を今日の学院に展開する、伝統の継承のための「システム造り」であろうと考えております。思い上がることなく、謙虚に、誠実に、託された務めに取り組む所存でございます。神の御祝福と、学院を愛する皆様方の祈り、さらには関東学院を覚えてくださる諸教会のお祈りを切に願うものであります。



▲タイのアカ族ドイトゥン村での教会堂起工式 (第二回関東学院史展示会展示写真)

Rev. Makito Morishima, Professor of Humanities, Is Inaugurated As Chancellor of Kanto Gakuin

Five students enrolled in the Yokohama Baptist Seminary located on the bluff in Yokohama 122 years ago. This small beginning has now evolved into Kanto Gakuin, which encompasses preschool to graduate school education and with over 16,000 students enrolled throughout the system. The reason the small seminary has grown into such a large educational institution is because of the cooperation and help of the American Baptist Church and its overseas missionaries, the leadership of all the graduates of the institution, and God's many blessings. It is my prayer that I can focus on the spirit of our founding fathers and continue in God's work for the continual growth and prosperity of this fine institution.



Reports of Kanto Gakuin 125th Foundation Anniversary Projects Symposium on Christian School Education at Schools in Yokohama Held
As one of Kanto Gakuin 125th Foundation Anniversary Projects, on October 21, 2006, a symposium on Christian Education at schools in Yokohama was held at Kanto Gakuin University's Kannai Media Center, under the auspices of Kanto Gakuin School Corporation and the Institute for the Study of Christianity and Culture at Kanto Gakuin University. This project was held in the hopes of making contributions to society and Christian education in Japan.

The four panelists for the symposium were: Mr. Satoru Kuze, Chancellor of Meiji Gakuin, Ms Haruko Nakamura, Principal of Ferris Girls' Senior High School, Ms. Akiko Nakajima, the Head of Soshin Girls' Junior High School, and Rev. Makito Morishima, Chancellor of Kanto Gakuin.

International Symposium 'Light and Shadow in the Age of Discovery' Held
As one of Kanto Gakuin's 125th Foundation Anniversary Projects, on November 23, 2006, the international symposium 'Light and Shadow in the Age of Discovery' was held at Harrington Hall on Kanto Gakuin University's Odawara campus, under the auspices of Kanto Gakuin School Corporation, and also sponsored by Odawara City, the Ministry of Foreign Affairs, and the Association of Portugal in Japan, as well as others. This project was conducted for promoting more international exchange projects.

The three panelists for the first part of the symposium titled Portugal Culture and Japan were Dr. Pedro Passos Canavaro, a historian from Portugal; Dra. Isabel Cid, Chief Librarian of the National Library in Portugal; and Ms. Michiko Nagai, a writer.

The three panelists for the second part of the symposium titled 'Light and Shadow in the Age of Discovery' in Timor-Leste were Mr. Armindo Maia, Ambassador of Timor-Leste to the Philippines; Mr. Aderito de Jesus Soares, Lawyer and Lecturer of Timor-Leste National University; and Dr. Rui Marques, High Commissioner for Racial Minorities.

関東学院創立125周年記念 国際交流事業

「国際シンポジウム—大航海時代の光と影—」

実施期日：2006年11月23日（木）勤労感謝の日 12：30～17：00

12：30～ 開 会 関東学院中学校高等学校 O.C.C.ハンドベルクワイア演奏

指揮者 鷹巣 誠一（関東学院中学校高等学校教諭）

13：00～ 第一部「ポルトガル文化と日本」

パネリスト ペドロ・カナヴァロ 氏（歴史学者、元欧州議会議員）

イザベル・シッド 氏（ポルトガル国立エヴォラ古文書館館長）

永井 路子 氏（作家）

コーディネータ 伊藤玄二郎（関東学院大学人間環境学部教授・リスボン工科大学客員教授）

15：00～ 第二部「東ティモールに見る大航海時代の光と影」

パネリスト アルミンド・マイア 氏（在フィリピン東ティモール全権大使）

アデリート・ソアレス 氏（弁護士・東ティモール大学講師）

ルイ・マルケス 氏（ポルトガル移民・少数民族高等弁務官）

コーディネータ 足立 昌勝
（関東学院大学法学部教授・関東学院大学法学研究科博士課程指導教員）

実施場所： 関東学院大学小田原キャンパス ハリントンホール

主 催： 学校法人関東学院

協 力： 関東学院中学校高等学校 O.C.C.ハンドベルクワイア

後 援： 小田原市（キャンパスシティおだわら【自由】対象事業）

外務省、日本ポルトガル友好議員連盟、日本ポルトガル協会

参加者数： 202名（募集定員400名、申込者数223名）入場無料

実施概要： キリスト教を日本に最初にもたらしたザビエル生誕500年の2006年に、ポルトガルと日本・アジアの文化交流の「光の部分」と、植民地政策がもたらした「影の部分」とに焦点を当てて二部構成のシンポジウムを開催しました。

小田原市の地域文化交流・社会貢献事業として関東学院大学小田原キャンパスにて小田原市の後援を受けて「キャンパスシティおだわら【自由】対象事業」としました。

開会の関東学院中学校高等学校 O. C. C.ハンドベルクワイアによる演奏では14人の生徒達の奏でる美しいハーモニーに、参加者から賞賛の拍手をいただきました。

シンポジウム第一部「ポルトガル文化と日本」では、ポルトガルに渡ったエヴォラ屏風の下張り古文書からポルトガルと日本の文化の交流を知り、その書き残された文書から紐解く当時の庶民の歴史について認識を深めることができました。

シンポジウム第二部「東ティモールに見る大航海時代の光と影」では、独立に至る過程の歴史の中での占領、戦争、内紛などの困難さを乗り越えて、今、世界でいちばん新しい国としての独立を果たした国家の現状を知り、世界の中の様々な国と日本の違いを考える契機となりました。



関東学院創立125周年記念 社会貢献事業

「横浜のキリスト教主義学校教育シンポジウム」

実施期日：2006年10月21日（土）13：30～16：30

実施場所： KGU関内メディアセンター（横浜メディア・ビジネスセンター(YMBC) 8F)

司 会： 前関東学院学院長 松本 昌子 開催趣旨

パネリスト： 明治学院学院長 久世 了氏 日本の学校とミッションスクール

フェリス女学院高等学校校長 中村 晴子氏 Thy Will Be Done.

捜真女学校中学部教頭 中島 昭子氏 カトリック学校の源流をたどって

関東学院学院長 森島 牧人 奉仕教育と関東学院

主 催： 学校法人 関東学院

共 催： 関東学院大学 キリスト教と文化研究所

後 援： 神奈川新聞社、tvk（テレビ神奈川）

参加者数： 75名（募集定員100名、申込者数107名）入場無料

実施概要： 横浜開港時に来日した宣教師が始めたミッションスクールが近代日本の文化、特に教育界にどれほど重大な貢献を果たしたかを考えると、当時の日本人の西洋文化の摂取は和魂洋才、すなわち西洋文化の根底の深い内面性には目もくれず、科学技術の学習や生活様式の模倣に終始した時代でした。それに対して、ミッションスクール、現在のキリスト教主義学校は西洋文化の根底をなしていたキリスト教をもって、教育の基本理念・建学の精神とする学校でした。青少年の心の荒廃、教育の危機が叫ばれる現代こそ、われわれは最初期の宣教師たちが命を賭けて開拓したキリスト教に基づく愛と奉仕と平和の教育を現代に活かす道を真剣に考えます。（案内パンフ趣旨説明より）

100名の会場はほぼ一杯となり、パネリスト講演の後のシンポジウムでは会場参加者との意見交換をとおして、2009年に横浜開港150周年を迎える横浜の地において、開港とともに誕生したミッションスクールの発展と、現代の学校教育や教育問題におけるキリスト教教育の果たす役割について考える機会となりました。

また、ご後援をいただきました神奈川新聞社のご協力により、シンポジウム当日の様子を10月31日付け神奈川新聞朝刊紙上に掲載していただくことができました。





The Special Exhibition 'Kanto Gakuin Foundation Spirit and Japanese Traditional Culture in the Twilight of Modern Japan' Held

As one of Kanto Gakuin's 125th Foundation Anniversary Projects, between November 1 and 5, 2006, the special exhibition 'Kanto Gakuin Foundation Spirit and Japanese Traditional Culture in the Twilight of Modern Japan' was held at Kanto Gakuin's small hall (exhibition room) on the Kanazawa Hakkei campus.

学院創立125周年記念事業として カルチャーとサブカルチャーを テーマに日・韓国際シンポジウムが 開催される

2006年11月4日、大学の人文科学研究所は、日韓の文化状況を多角的に学び合い、相互の研究を深め、交流、理解を図り合うことを目指した「日・韓国際シンポジウム」をKGU関内メディアセンターにて開催しました。

今回、韓国から釜山の東西大学校・張済国教授を招聘し、関東学院大学文学部・富岡幸一郎教授の基調講演をはじめ、パネリストとして在日韓国人研究者に加え、文芸評論家・川村湊氏、作家・中沢けい氏の他、大学研究者、関係者やコメンテーターとして国際交流研究機関の関係者が多数参加しました。



The International Symposium 'Culture and Sub-culture between Japan and the Republic of Korea' held

As one of Kanto Gakuin's 125th Foundation Anniversary Projects, on November 4, 2006, the international symposium 'Culture and Sub-culture between Japan and the Republic of Korea' was held at KGU Kannai Media Center under the auspices of KGU Institute of the Humanities.

創立125周年記念特別展示会として 近代黎明期における関東学院の 建学の精神と伝統文化展が 開催される



大学文学部比較文化学科企画、大学主催により創立125周年記念特別展示会として「近代黎明期における関東学院の建学の精神と伝統文化展」が、2006年11月1日（水）～5日（日）に関東学院小講堂（展示室）で開催されました。

**関東学院創立125周年・関東学院大学創立100周年特別展示会
近代黎明期における関東学院の建学の精神と伝統文化展**

日 時 10月12日（木）15:30～16:00
会 場 関東学院大学 金沢八景キャンパス2号館

【お問い合わせ先】
関東学院大学文学部 国際交流課
TEL. 045(786)7179

【アクセス】
JR東横線 金沢八景駅 徒歩10分

関東学院創立125周年・ 中学校高等学校創立90周年 記念事業として 中学校高等学校新棟の起工式が 挙行される

このたび、関東学院創立125周年・中学校高等学校創立90周年記念事業として関東学院中学校高等学校新棟の建設工事を行う運びとなり、2006年10月16日（月）15：30から三春台校地において起工式が挙行されました。同新棟の完成は、2008年4月を予定しています。



関東学院、創立125周年記念事業として 『シーボルト コレクション植物画集(仮称)』 出版プロジェクトを ロシア科学アカデミー図書館および 小学館との3者間で調印する



《調印式開催の経緯》
学校法人関東学院は2009年10月6日に創立125周年を迎える。

昨年開催の日露文化交流シンポジウムを契機に、ロシア・サンクトペテルブルグ、ロシア科学アカデミー図書館・コマロフ植物研究所が所蔵している日本人絵師による「シーボルト植物図絵」原画の出版希望の計画を知った。同図書館の要請を受け、本学院と株式会社小学館(相賀昌宏社長)はこの出版に協力を約束。この間、3者(ロシア科学アカデミー図書館・小学館・関東学院)による出版の話し合いを継続し、この度、基本的な合意が得られたので、10月12日、ロシア科学アカデミー図書館館長ヴァレリイ P.レオノフ博士とT.A. チョールナヤ司書長を本学院に招聘し、3者による基本合意書等の調印式挙行の運びとなった。

関東学院は、創立125周年記念事業として、文化的価値の高いこの企画を実現することによって、社会貢献・国際交流の役割を担うものである。

《プロジェクトの調印式》
日 時：2006年10月12日（木） 15:30～16:00
会 場：関東学院大学 金沢八景キャンパス2号館
調印者：ヴァレリイP.レオノフ博士 氏
(ロシア科学アカデミー図書館長)

白井 勝也 氏(株式会社小学館専務取締役)
内藤 幸穂 (学校法人関東学院理事長)

Siebold Flora Collection Publishing Agreement Signed

A ceremony for signing the basic agreement to cooperate in publishing Siebold's Flora-collection among Kanto Gakuin School Corporation, the Library of the Russian Academy of Sciences and Shogakukan Inc., was held at Kanto Gakuin University, Kanazawa Hakkei campus, Yokohama, Japan on October 12, 2006.

The outline of this project as part of the 125th Foundation Anniversary is as follows: The Parties agree to prepare and publish an illustrated book in traditional printed form, accompanied by a DVD.

The main content of the Book (tentative name "The Japanese Flora in Illustrations/ from the Heritage of Philip Franz von Siebold") shall be of a humanitarian nature.

The book will be published in Japanese/448 pages, with a separate volume published in Russian.

The published information (Special edition: 1000 copies) will be sold by Kanto Gakuin 125th anniversaries' commemoration committee and all profits will be used towards building Kanto Gakuin's endowment.

Main author: Ms. T. A. Tchernaja (Komarov Botanical laboratory, curator of the Collection).

To be issued by Shogakukan Inc., in January, 2008.

The Groundbreaking Ceremony for the Junior & Senior High Schools' New Building Held

The groundbreaking ceremony for a new building for the junior and senior high schools on the Miharudai campus was held on October 16, 2006, as one of Kanto Gakuin's 125th Anniversary Project and the Junior & Senior High School 90th commemorative project.

関東学院の源流を探る 25

レイモンド・P・ジェニンス博士

Dr. Raymond P. Jennings (1924-2006)

アメリカ・バプテスト宣教師・本学教授・大学宗教主任



ジェニンス博士

本学初期時代における博士の貢献

レイモンド・P・ジェニンス博士は、二〇〇六年四月四日にカリフォルニア州オークランド市で逝去された。享年八二歳であった。このような博士の訃報が日本の私たちにも知らされた。博士が帰国されてから既に四七年経っている。生前の博士と交流のあった人々は、すべて学院から隠退されておられる。そのためもあり、博士を追悼し、本学における博士の功績を思い起こす記念会が開かれていない。しかし博士の本学における貢献は忘れられてはならない。

故富田富士雄教授は『関東学院生活』（現代思潮社 一九五四年）の中で、当時の学院の楽しい情景を描いてくれている。

「クロバーの丘の上をケニー・ジェニンスがぶらぶらと歩いてゆく。緑のトンがり帽に緑のジャケツ。四角な大きな箱を抱えている。『それ、なあに』と聞いてみよう。ケンちゃんにはいつと笑って、『ペントウだよ』」

彼は幼稚園へ今年から通っている人気者で、大学宗教主事ジェニンス先生の長男である。ミスター・ジェニンスは米国エール大学卒業後、派遣されてきた宣教師で、彼の朗らかな、よい意味のアメリカらしさは、学内に自由闊歩の風を送り込んだ。学生たちは遠慮なく先生と討論する。哲学的、観念的な学生の論理に立ち向かって、先生の立場は行動的、実践的である。」

これはジェニンス博士が本学に来て三年目の頃の情景である。今では珍しくないかもしれないが、息子をキャンパス内の日本の幼稚園に通わせていた。ケニーは家族のだけよりも早く日本語を覚えた。やんちゃな服装も目に付く。アメリカ製ボックス型のお弁当箱には、サンドイッチが入っていた。典型的なアメリカの子供達の通学の持ち物である。先生自身も、当時の威厳を保とうとする日本人教授たちとは異なって、気さくな、ユーモアに富んだ人であった。

がキリストの証しになるのですから。困難でも力いっぱい戦ってください。関東学院の上に神様の祝福がありますように。」

関東学院の第二世紀に、ここで働く者たちと学ぶ者たちは「存在それ自身が、キリストの証しになる」関東学院を守り、持続させねばならないと言った。

大学神学部の設置と経過

ジェニンス博士は、本学神学部の設置の経過について、次のようにアメリカ・バプテストの『ミッションズ』誌（一九五四年六月号）に寄稿している。

礼拝後に、大学教授会が会食していた時のことである。当時の白山源三郎学長が電話口によられた。しばらくして、笑みを浮かべて戻ってきて白山学長はこう発表した。「文部省が正式に神学部の設置の認可してくださった」と。

「認可された神学部は、これまでのキリスト教研究所に代わるものである。この研究所は第二次大戦後に始まった。さらにこれは一八八四年にさかのぼることができる。アルバート・A・ペンネット宣教師が五名の学生たちをもつて、日本における最初のアメリカ・バプテストが運営する神学校を始めた。一九〇〇年以後、アメリカ・バプテストは超教派の諸神学校に寄付をしてきた。一九五〇年に、関東学院大学にキリスト教研究所が設置された。この研究所はこれまで経済学部の中に位置付けられていた。五年課程で前半の三年間は一般教育の教育にあてられ、後半の二年間は神学教育にあてられた。卒業生は経済学士の称号を与えられた。だが、これは若い牧師志願者には迂回の道のようにうけとめられていた。

文部省の求めるきびしい基準を満たすために、困難な道をたどらねばならなかった。基準図書八千冊が整ったところ、基準条件が変更され一万冊に引上げられた。そのためアメリカ・バプテストの諸神学大学院から図書の寄贈を受けている。そのなかでもパークレ

新制大学として発足してまだ日の浅い関東学院大学の中で、新しい企てを試みる、もつとも行動的で、新進気鋭の先生の姿が想像できるであろう。当時、博士は一般教育の英語担当教授、キリスト教教育に関わる宗教主事、それにキリスト教伝道者の養成課程として設置されていた五年制のキリスト教研究所では、教会史、新約時代史、視聴覚伝道学を教えた。当時、日本人教授陣に欠けていた歴史部門と実践部門を受け持った。ご夫人のアイリーン先生は短期大学で英語を教えられた。

二五年ぶりの来日

一九八四年十月に関東学院創立百周年記念式典が開かれた時に、ジェニンス博士は招待を受けて来日された。帰国後、二五年ぶりのことである。この訪問を機会に、当時の大学宗教主任の大島良雄先生が博士と対談しておられる。「ジェニンス先生ようこそ」(告知板 一九八四年十二月)のなかで、大島先生が本学における博士の貢献を回顧しておられる。

「先生は一九五〇年から五九年にかけて、本学の宗教主任およびキリスト教研究所(後に神学部となる)の教師として非常に精力的に活躍されました。先生が就任された頃は、大学の創設期で設備など貧しく、宗教活動も今とは違う困難があったのですが、先生は熱い折りと情熱の人で、次々に新しい活動を展開されました。」

キリスト教研究所の開設、大学あげての宗教研調月間の行事、毎日の礼拝等、文書活動としては、クリスチャン学生を応援して『告知板』を発刊させたり、『ただ一回の証』シリーズを刊行したりされました。

そのほかに、ご自分の家を開放して交わりのお会を作り、当時、学内にあった青雲寮の学生などが集まって、聖書研究やレクリエーションなどをやっていました。

非常に日本語が上手でユーモアに富んだ人柄で、多くの学生に愛されておりましたから、二五年前に事情があつて先生が大学を去られたことは、本学にとって大変な損失でした。一九八〇年以後については、当時のエキュメニズム(世界教会協議会運動)の路線に沿って、主要教派が協同事業を推進してきたことを指している。戦後は、戦時下に政府の指導によってできた日本基督教団から離脱したバプテスト教会と、戦後できたバプテスト教会が日本バプテスト同盟を組織した。その教職者養成を関東学院大学キリスト教研究所がなった。

神学部設置の認可が容易におりなかつたことも、言及している。図書充実のためアメリカ・バプテスト諸教会および関係神学大学院の応援があつたことを感謝をもって記している。アメリカ側から送られてきた教授陣は、歴史部門のR・E・フロップ博士と旧約聖書のT・マクダニエル氏であった。

もう少し博士の記事を紹介しておこう。「新しくできた神学部は、既存の経済学部と工学部と同様に、どの教派に属する学生にも門戸を開いている。しかしバプテスト教会出身者および将来バプテスト教会の教職を志願する者には、バプテスト・コースが必修となっている。すべての学生はバプテストの精神に触れることができるし、バプテストの学生は他の教派の伝統に属する人々と共に学んで、自分たちの経験を豊かにすることができ

る。戦後の短い期間であつたが、キリスト教研究所は二十数名の卒業生を輩出した。一人を除いて、すべてがキリスト教会およびキリス

たことは、本学にとつて大変な損失でした。」アメリカに帰国された当時と比べて、日本あるいは関東学院が変わつたというのはいくら点ですか、という質問に対して、博士はこう答えておられる。今日も忘れてはならないものであるので、引用しておきたい。

「この式典に招いていただいて、本当に光栄ですし、嬉しいです。私にとって、坂田祐先生はまだ偉大な先達ですし、アメリカ・バプテストが日本で始めた教育事業の中で、関東学院は一番に大きな成果の一つです。歴史的に見れば、百年前に横浜山手で始まったバプテスト神学校までさかのぼるし、さらにさかのぼるなら、その事業は、ジョンサン・ゴードルやネーサン・ブラウンの教育活動ということになりました。」

二五年前に私は関東学院を去つたのですが、こうして帰ってきてみて、まず驚いたことは日本の経済力の発達です。たとえば私が関東学院にいた頃、自動車を持ちまわすことで批判を受けました。自家用車を持つことは、当時はまだぜいたくなことで、宣教師が自動車に乗つたりしては、一般庶民の感覚がわからない、と言われました。ところが今はどうでしょう。私が日本に着いてからずっと、昔の教え子が自動車までどこへでも連れていってくれます。彼が私がアメリカで持っていた中古のトヨタよりずっといい自動車を持っているんです。そのほか、交通機関や建物や道路などを見ても、二五年前とは大変な違いです。私はまるで浦島太郎か、リップ・ヴァン・ウィンクルみたいですよ。

関東学院についても同様です。その間の発展ぶりは、まさに見事というほかありません。神の力が関係者の方々を通して働いてきたことの証明だと思えます。関東学院の百年の歴史を通じて、アメリカ・バプテストがやって来たことは、いわば助産婦の役割を果たしたことです。

戦後、我々は関東学院が生きながらえることができるように援助をしました。金沢八景ト教主義学校に奉職している。神学部が認可されるとともに、関東学院大学の貢献はますます拡大するであろう。

しかし課題は完了したというわけではない。もっと多くの基金と人材を必要としている。日米のバプテストからの十分な支援と貢献があつてはじめて、日本における、これまでにない宣教の機会に恵えることができる。」

博士はこうのように新たに出生した神学部の存在の意味の大きさを説き、さらなる支援を訴えている。

来日まで

ジェニンス博士は一九二四年三月二八日にミズーリ州セント・ルイス市に生まれた。ミズーリ州はアメリカ合衆国中部に位置する州である。大西部への門口とされる。しかしアメリカ東部の性格を備えているとも言われる。ここにはヨーロッパからいろいろなる人種が移住してきた。そのため、その地はコスモポリタン的な性格と進取の気性を持つとされる。ジェニンス博士はその典型的な人物のようであった。セント・ルイス市はミシシッピ河の西岸にあり、ここでモンタナ州に源流を持つミズーリ河がミシシッピ河に合流している。

博士は先ずウィリアム・ジュエル・カレッジで学んでいる。この大学はリバティにある。ミズーリ州キャンサス市に近い小さな町である。同大学は本学と同じくバプテスト教会と結び付きがある。一八四九年創立、一九二一年から男女共学、今日学生数約一五〇〇名、行き届いた個人指導が特色である。ミズーリ州の有名な内科医でバプテスト信徒であったウィリアム・ジュエル氏がキャンパスの土地を提供したので、その名が付けられた。この大学は、一九世紀イギリスの偉大なバプテスト説教者、C・H・スポルジョン・コレクションを持っていることでも知られている。スポルジョンの手紙、原稿、著作、彼が収集した古い賛美歌、初期ビュリタン資料が納められている。

Dr. Raymond P. Jennings (1924-2006) --American Baptist Missionary / Professor + Chaplain of Kanto Gakuin University

Dr. R. P. Jennings was the most provocative professor and inspiring chaplain and served in Kanto Gakuin University from 1950 through 1959. He taught English language at the College of Engineering and church history and audio-visual evangelism at the Institute of Christian Studies. As chaplain, he spoke at chapel hours and talked to every student he met with in class and on the campus. Dr. and Mrs. Jennings invited students to their residence and served them with coffee and cookies. The students who were living away from their parents enjoyed home-like hospitality and fellowship with the Jennings. He started to publish the periodical Christian Bulletin, which still continues even today with the issue No.312. This bulletin has provided easy reading materials of Christian faith and life. He encouraged Christian professors to give testimonies at the chapel hours and published them in a series. This series stimulated young students who were thirsty for the true value of life in the time of chaotic societies after the World War II. Dr. R. P. Jennings was born in St. Louis, Missouri on March 28, 1924. After graduating from William Jewell College in Liberty, Missouri in 1945, he went to Divinity School of Yale University and finished his theological training there in 1948. Later he earned his Master of Theology degree from Berkeley Divinity School in Berkeley, California and the Doctor of Theology degree from Central Baptist Theological Seminary in Kansas City, Kansas in 1958. Raymond married Elizabeth Irene Payne on August 28, 1944. She was educated at William Jewell College, Kentucky Business College and New Haven Teachers College, Connecticut. They were initially appointed in 1948 by the American Baptist Foreign Mission Society as the missionaries for educational work in Myanmar. However the political situa-

tion of Myanmar made it impossible for them to serve there. After more than a year of waiting, the Jennings were assigned to minister in Kanto Gakuin University. They first received the training of the Japanese language in California, and set sail for Japan by President Wilson in February in 1950. During his service in Kanto Gakuin University he came to know the Non-church Christian Fellowship Movement (mukyukaishugi). This movement was originated from Mr. Kanzo Uchimura and deeply rooted among the educated class in Japan. Mr. Uchiura was a Bible teacher and edited a monthly magazine Bible Study which was well read by educational circles. In the Kanto Gakuin University, Chancellor Tasuku Sakata and Professor Masunobu Yamamasu were the followers of Mr. Uchimura. Through their introduction, Dr. Jennings studied his thought and wrote a book "Jesus and Japan -Kanzou Uchimura." Dr. Jennings found some similarity between the affirmation of the Non-church movement and the principles of Baptist churches. Before his departure from Japan, he gave a lecture at the service celebrating the establishment of the College of Theology, Kanto Gakuin University on April 29, 1959. He emphasized that the year 1959 was significant as the one hundredth anniversary of Protestant missionary endeavour in Japan and and Kanto Gakuin University dedicated a new College of Theology to prepare Japanese young people for Christian witnessing in their own land. He said the centennial was the time to reflect upon the past and to seek to see the failures and shortcomings of human effort in Christ's name. According to his conclusion, Japanese Christianity had failed to confront Japan's culture. This was the reason why the growth of the Christian Gospel was hindered in Japan. He proposed the new century demanded a new approach. The Church, especially the theological seminary must deal with Japan itself. The Japanese church must sincerely meet its challenge and ask itself what the Gospel has to say

about its cultural situation. Dr. Jennings left Kanto Gakuin University and in 1960 accepted the pastorate at First Baptist Church in Ottawa, Kansas and he served as chaplain and professor of New Testament at Ottawa University. He also served several churches as pastor and a staff member of the American Baptist Churches, the U. S. A. He was an active and enthusiastic man of service in the work of the Lord.



博士の英語劇冊子

「宣教の歴史的起源は、イエス・キリストの活動、生涯、命令の中に見られる。またそれらは弟子たちの生涯にも反映されている。」

(22頁へ続く)

「宣教の神学をめぐって」講演 ジェニンス博士は、一九五九年四月二十七日に本学神学部開設記念講演を行なった。実は組織を優先していなかった。イエス・キリストが建てると言われたエクレシア(教会)は、組織の形態をとったが、組織をエクレシアそのものと同一視していない。内村鑑三もこの教えに沿っている。内村はキリストにある一致に人々を招こうとしたという。組織を回避すれば、無秩序になるのではないかと主張に対しては、内村は神へのまっつき服従があれば、一致が保証されるとする。そしてキリスト教徒の使命は、世界へ出て行って福音を宣べ伝えることである。内村鑑三は、人々に主キリストの言葉を聞いてもらおうとしたのだという。

その年やむをえず帰国したので、これは博士が日本の指導者に残した、日本のキリスト教会および神学教育の問題点の指摘と今後のための提案、と見ることが出来る。本学神学部発行『聖書と神学』第四号に英文原稿が掲載されている。これは今日にも有効な示唆を含んでいるので、概略を紹介しておきたい。 R・アレン著「聖パウロの宣教方法か、私たちの宣教方法か」(一九二二年)が再刊されて、聖書の宣教方法が注目されている。 F・シャックロック博士は、『信仰の革命』の中で、聖書の研究に集中し、神が目指すところを表明する必要があること、今日の人々が求めるものに対して、福音はどう答えるかを問わねばならない、と指摘した。日本では、シャックロック博士が指摘する課題が実行さ

れていない、とジェニンス博士は言う。日本の神学研究は神学についての研究である。日本の神学は創造性を欠いている。神学思惟と実践との間に乖離があると指摘する。 ジェニンス博士は、スイスの高名な神学者 E・ブルンナー博士が国際キリスト教大会に滞在中に直接にお話をうかがった。ブルンナー博士は同じく高名なスイスの神学者、K・バルトのそれと異なって、自分の神学は宣教の神学であると言ったという。 ドイツの神学者でアメリカに移住した P・テイリツヒも「宣教の神学」と題して論文を書いている。テイリツヒによれば、キリスト教会は歴史における神の国の代理者である。教会は宣教の活動によって、全世界に神の国を明示しようと努めている。教会は、主イエス・キリストから託された宣教が、教会の主要任務であることに気が付くのに、二千年かかったという。 W・O・カーヴァーは「諸時代に見られる宣教」(一九〇九年)でこう記している。

「神と人間は、宣教の現場に立っている。神は、その性質上、宣教の現場におり、人間は、あがないにより、またあがないによって与えられた新しい衝動に応じて、宣教の現場にいる。」 ジェニンス博士はこれらの先行研究をふまえて、こう結論を述べている。神は宣教の神であり、人間に語り掛け、神のことが骨肉したのである。E・ブルンナー博士は「火は燃えることによって存在するように、教会は宣教によって存在する」とジェニンス博士に直接に語ったという。

「告知板」の創刊者である。「告知」とはイエス・キリストの告知を意味している。これは今日三二二号に達しており、関東学院の中でもっとも長く続いている定期刊行物である。このほかにも、博士は精力的に文書活動を進めた。戦後のまだ何も無い時代に、活字に飢えていた、しかも生きる希望を求



『告知板』の第一号と第二号

文書活動の先駆者

ジェニンス博士は今も存続している「告知板」の創刊者である。「告知」とはイエス・キリストの告知を意味している。これは今日三二二号に達しており、関東学院の中でもっとも長く続いている定期刊行物である。このほかにも、博士は精力的に文書活動を進めた。戦後のまだ何も無い時代に、活字に飢えていた、しかも生きる希望を求

めていた若者に、その活動によって、聖書からの答えを与えようとしていた。 博士は、本学における文書活動について『ミッションズ』誌(一九五五年一月号)にこう報告記事を書いている。 「関東学院大学の学生たちに、いかにしてキリスト教の使信を伝えるかという課題は、東京・横浜地区のアメリカ・バプテスト宣教師たちの関心事の一つである。有効であると判明した一つの方法は、特別の読み物の計画である。学生の体験に焦点を当てた小冊子の発行・配布である。 現在、二つの小冊子シリーズを刊行している。『一回だけの証』シリーズは教師たちの証にヒントを得たものである。大学のチャペルに学生の出席が少なく、ということを通じて話にしていたとき、ある教師がこう言ったのである。『礼拝に出てこなくても、学生を責めるわけには行かない。大学礼拝は興味を引くものがない。毎日、教師たちは自分の得意としているテーマを語るが、キリスト教とは一体何なのかについて語っていない』と。 この教師の示唆を受けて、大学礼拝にはテーマが設けられた。そして小冊子が生まれた。私は、クリスチャン教師たちに、たった一度学生たちに語る機会が与えられたとしたら、自分が語るであろう仕方、キリスト教信仰の中心的な問題をめぐって、二十分でメッセ

「告知板」の創刊者である。「告知」とはイエス・キリストの告知を意味している。これは今日三二二号に達しており、関東学院の中でもっとも長く続いている定期刊行物である。このほかにも、博士は精力的に文書活動を進めた。戦後のまだ何も無い時代に、活字に飢えていた、しかも生きる希望を求

「告知板」の創刊者である。「告知」とはイエス・キリストの告知を意味している。これは今日三二二号に達しており、関東学院の中でもっとも長く続いている定期刊行物である。このほかにも、博士は精力的に文書活動を進めた。戦後のまだ何も無い時代に、活字に飢えていた、しかも生きる希望を求

「告知板」の創刊者である。「告知」とはイエス・キリストの告知を意味している。これは今日三二二号に達しており、関東学院の中でもっとも長く続いている定期刊行物である。このほかにも、博士は精力的に文書活動を進めた。戦後のまだ何も無い時代に、活字に飢えていた、しかも生きる希望を求

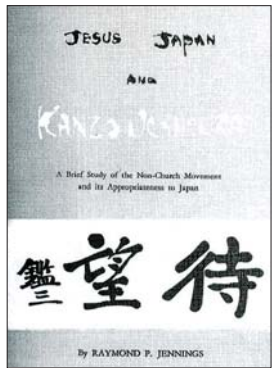
「告知板」の創刊者である。「告知」とはイエス・キリストの告知を意味している。これは今日三二二号に達しており、関東学院の中でもっとも長く続いている定期刊行物である。このほかにも、博士は精力的に文書活動を進めた。戦後のまだ何も無い時代に、活字に飢えていた、しかも生きる希望を求



ジェニンス夫人

「告知板」の創刊者である。「告知」とはイエス・キリストの告知を意味している。これは今日三二二号に達しており、関東学院の中でもっとも長く続いている定期刊行物である。このほかにも、博士は精力的に文書活動を進めた。戦後のまだ何も無い時代に、活字に飢えていた、しかも生きる希望を求

「告知板」の創刊者である。「告知」とはイエス・キリストの告知を意味している。これは今日三二二号に達しており、関東学院の中でもっとも長く続いている定期刊行物である。このほかにも、博士は精力的に文書活動を進めた。戦後のまだ何も無い時代に、活字に飢えていた、しかも生きる希望を求



博士の無教会研究者書

博士の著書『Jesus Japan』内村鑑三(一九五八年)は、カリフォルニア州パークレー・バプテスト神学大学院(今日のアメリカン・バプテスト西部神学大学院)に提出された神学修士論文である。序文によれば、博士は、無教会に属した二人の歴代の東大総長、南原繁博士と矢内原忠雄博士とも面談している。また在日中ブルンナー博士とも親しく面談する機会を持っていた。ブルンナー博士は無教会主義に深い関心を持っていたのであった。

「告知板」の創刊者である。「告知」とはイエス・キリストの告知を意味している。これは今日三二二号に達しており、関東学院の中でもっとも長く続いている定期刊行物である。このほかにも、博士は精力的に文書活動を進めた。戦後のまだ何も無い時代に、活字に飢えていた、しかも生きる希望を求

「告知板」の創刊者である。「告知」とはイエス・キリストの告知を意味している。これは今日三二二号に達しており、関東学院の中でもっとも長く続いている定期刊行物である。このほかにも、博士は精力的に文書活動を進めた。戦後のまだ何も無い時代に、活字に飢えていた、しかも生きる希望を求

(株)ニコン社長
荻谷道郎さん



英語教育をとおして
自然に人格教育を

富山 関東学院での思い出をお聞かせください。
荻谷 今回、インタビューをお受けするに際して、当時から改めて思い出し、これまで想っていた以上に自分の人格形成に大きな影響を与えていたことに気づきました。

私は東京の公立中学校から関東学院高校に進学したのですが、英語がよくできなくて、友井篤先生から徹底的にしごかれました。先生は、自宅で塾を開かれていて、週に1〜2回、出来ない生徒には声をかけ、無償で教えてくれました。毎回、サマセット・モームの難しい英文を翻訳するのですが、友井先生が行間びつしりと赤字で書き込んでくれるのです。それについて先生と私とで著者の真意について討論しました。そうすると、どのような人間であるべきか、どう生きるべきかについて先生と議論することになりました。後からよく考えてみると、それは英語教育に留まらず人格教育になっていたのですね。坂田先生がおっしゃられていた「人になれ、奉仕せよ」にも通じていたんだと今では思っています。

私は聖書やキリスト教には影響されないうえに斜に構えているような生徒でした。そのうえ、我が強く、他人のことも考えもしなかった。その私を、友井先生は一人の人格として対等に接してくださり、英語教育をとおして、徹底的に任されたのだと思います。

就任後も、いろいろな改革を行ってききました。円安など運にめぐまれた事もありますが、去年発表した向こう3年間の中期経営計画を最初の1年でほとんど達成できそうです。

今後も90年の伝統を生かしながら、企業活動の基本である人材を育成し、また先見性をもって優れた技術に磨きをかけ、潜在する可能性を現実のものにしたいと考えています。そして、この素晴らしい宝を収益に結びつけニコンの企業理念である「信頼と創造」を実現し、実践していきます。半導体露光装置に代表されるようにニコンは社会の根幹に関わる事業

英語力はもちろん著者の真意はなにか、人間とはなにか、自分がどうあるべきか、どのように生きるべきかを考える習慣をつけてくださったからです。そのときの人格形成が今の自分の芯になっていることに気づき、先生から最大の影響を受けたことが分かりました。関東学院へ進学せず、公立コースを歩んでいたなら、相当嫌な奴になっていたでしょうね。そのような意味で、関東学院で学ばなければ、現在ニコンの社長になれなかったでしょうね。

富山 他に影響を受けた先生はいますか。
荻谷 高校一年生の時のクラス担任の化学の小林三三先生にも影響を受けました。3年間化学部の活動をし、卒業後、大学では化学を専攻し、化学者(ケミスト)になったのですから。先生の影響で同級生の石田愈君(東京工業大学名誉教授、湘南工科大学客員教授)や金子正夫君(茨城大学教授、も卒業後、化学を専攻するようにになりました)。

望遠鏡で星を観測するのも好きでした。1958年に金環食があり、日中でもカラスが鳴きだすほど暗くなりまして、学校で撮影した写真を文化祭で発表したりしました。そのときからすでにニコンへの就職が決まっていたのかもしれない。(笑)

1957年に最初の人工衛星スプートニク1号が飛んだのですが、その新聞を長谷川二郎君がこれについて議論しないか、といっってクラスの皆にもちかけ、大議論をしたことを覚えています。当時の**富山** たくさんの社員を抱えての、かじりの秘訣はありますか。
荻谷 人をどう使うかではなく、自分がどうあるべきかが大事です。自分で誠意をもって生きる。ニコンには会長がいまさんから、社長の決定権が大きい。だからこそセルフ・コントロールが大切です。先ほどお話ししたように高校時代に「どのような人間であるべきか。どうやって自分をコントロールするか」を友井先生

荻谷 社会に役立つ事業を展開し、社会からどうしても必要だと思われる会社にしたいですね。社長の役割は、会社の方角を示すことと最大限に社員の能力を発揮させることだと考えています。会社は人ですから、一人ひとりが最大限に能力

社長としての夢と抱負は

高校生は社会に対する問題意識が高かったですね。今から考えると討論というやり取りですが。

学校はおおらかな雰囲気、ユニークな人が多かった。紅葉坂教会の北村慈郎牧師とは、席順が並んでいたこともあり、一番仲の良い級友でした。

富山 今年創立90周年を迎えるニコンの企業理念は「信頼と創造」とありますが、社長としての夢や抱負をお聞かせください。

と議論してきたことが、自分の芯になっていたなと思うのです。社長として今も、役に立っています。

若い人へのアドバイス

富山 学院に学ぶ若い人へのアドバイスをお願いします。

荻谷 「徹底的に物事を考える」ことですね。受験勉強や基礎学力を身につけるだけでなく、同時に人格形成も大事です。つまり知育と徳育の両方のバランスが大事だということです。

受験勉強だけじゃなく、大らかな雰囲気があるところが、関東学院の良さだとおもいます。



荻谷道郎(かりや・みちお)さんプロフィール

- 1942年 横浜生まれ
- 1960年 関東学院高等学校 卒業
- 1965年 横浜国立大学工学部応用化学科 卒業
- 1967年 横浜国立大学大学院工学研究科 修了
- 1967年 日本光学工業株式会社 入社(現 株式会社ニコン)
- 1995年 (株)ニコン 取締役相模原製作所所長
- 2005年 (株)ニコン取締役社長兼 CEO兼COO 就任(現在に至る)

(株)ニコン事業領域

事業名	主な製品	事業別売上高比率(2006年3月期)
精密事業	半導体露光装置、液晶露光装置	33.1%
映像事業	デジタルカメラ、フィルムカメラ他	56.9%
インストルメンツ事業	生物顕微鏡、工業用顕微鏡他	7.3%
その他事業(望遠鏡事業、アイウェア事業他)	望遠鏡、メガネ他	2.7%

株式会社ニコン 略史

- 1917年(大正6年) 日本光学工業株式会社 創立
- 1948年(昭和23年) 小型カメラ「ニコン1」発売
- 1959年(昭和34年) 一眼レフカメラ「ニコンF」発売
- 1980年(昭和55年) 超LSI製造用縮小投影型露光装置(ステッパー)『NSR-1010G』発売
- 1988年(昭和63年) 株式会社ニコンに社名変更
- 1999年(平成11年) デジタル一眼レフカメラ『ニコンD1』発売
- 2000年(平成12年) 企業理念「信頼と創造」 制定

Character Educated Naturally Through English Education

Mr. Michio Kariya, a 1960 graduate of Kanto Gakuin Senior High School, is President, Member of the Board, Chief Executive Officer and Chief Operating Officer of Nikon Corporation. This company is famous for its developing of world-leading imaging technology and delivering on the promise of reliable quality.

Mr. Michio Kariya was born in 1942 in Yokohama City, Kanagawa Prefecture, and presently resides there in Midori Ward.

When a senior high school student, Mr. Kariya met the most influential person for himself. The man was Mr. Atsushi Tomoi, an English teacher at the school. Mr. Tomoi thoroughly taught him not only English by using William Somerset Maugham's writings but also taught him the good habit of perfectly considering about who each person is and how to live by the discussion method. Mr. Kariya said this experience helped him to build his core character naturally. Looking back over the past years, he said he could have hardly ever become the President of Nikon without his learning experiences at Kanto Gakuin.

対談後記

教育とは人格の陶冶であり、人間いかに生きるべきかを考え学ぶ時間が人生を豊かにすることを実感した。どのような知識・技能も、高い人格がなければ、他者と共に生きる知恵として働くことはない。「人になれ 奉仕せよ」。校訓が人生訓となることを目の当たりにし、その重みも実感したひと時であった。(インタビュー◎関東学院中学校 高等学校 校長 富山 隆)



法科大学院トピックス

新司法試験合格者インタビュー

先生方から「宝物」をどんどんもらえる ロースクールです。



井上佳子さん(30歳)
既修者コース
2006年修了

法学部を卒業後、アルバイトをしながら旧司法試験合格をめざしていた最中に法科大学院制度ができたことから、関東学院大学法科大学院へ入学しました。2年間かけてじっくりと法律の知識や思考方法を学ぶことができることも、実務家教員がそばにいたため、めざすべき法曹の背中が見えている環境に法科大学院ならではの魅力を感じました。

関東学院において特に印象深い授業として、「行政過程論」があります。この授業では横須賀市の現役職員の方が講師となり、自らが作成に関与された条例をはじめ、今、問題になっている地下室マンションの事案への対応策などについて、行政現場での具体的なお話を聴くことができました。そして、条例が定められる背景にはどのようなことがあるのか、条例をどのように運用しているのかなど、具体的な行政実務と基本書上の法律知識とを結びつけながら学ぶことができ、とても新鮮でした。また、教室での講義だけではなく、横須賀市役所で執務風景を見学したり、公民館で先生が市民の方々へ新条例の制度や運用について説明されるのを傍聴するなど、生きた行政法を体感できる授業でした。

また関東学院は、実務法曹の先生が充実しています。「企業法務」では、弁護士の方が実際の株主総会で使った資料をもとに双方向授業をしてくださいました。その結果、教科書を読むだけでは、なかなか理解できなかった会社法の解釈・適用の仕方を具体的に理解できました。「エクスターニシツプ」では、横浜の法律事務所へ赴き、

正義を貫ける職業：法曹にあこがれ進学。 先生から「宝物」をどんどんもらえるように、 何事にも積極的に取り組みました。

朝から晩まで指導担当の先生と行動を共にし、法廷傍聴、訴訟記録の閲読、内容証明郵便の起草、事務所での法律相談の同席など、弁護士実務の実際に触れられました。「リーガルクリニック」では、学校のホームページ上で受け付け来所された方に対して弁護士と先生と共に話を聞き、共に解決策を考え、助言するなどの体験ができました。このような実務法曹の先生方の授業に参加することによって、法曹とは本当に人の役に立つことのできる仕事だと改めて実感するとともに、こうした世界に自分も加わりたいという、モチベーションのアップにつながりました。

学者の先生の授業においては、判例を読み込んで設問に答える授業が主流なので、一般に事前の準備が大変になりがちです。私の場合は、予習時間を1時間と定め、集中的に関連することを調べ、授業で確認したい点をまとめるように心掛けていました。

新司法試験合格にむけての勉強として、まず、新司法試験のサンプル問題とブレテストを解いてみて、求められる知識や思考はどのようなものなのかを自分なりに分析しました。その結果、抽象的に書かれている基本書の内容を問題文の具体的事実とくいに結びつけて、まず、新司法試験のサンプル問題とブレテストを解いてみて、求められる知識や思考はどのようなものなのかを自分なりに分析しました。その結果、抽象的に書かれている基本書の内容を問題文の具体的事実とくいに結びつけて、

朝から晩まで指導担当の先生と行動を共にし、法廷傍聴、訴訟記録の閲読、内容証明郵便の起草、事務所での法律相談の同席など、弁護士実務の実際に触れられました。また、友人とゼミを組み、分らないところを各自勉強した上で持ち寄って議論し、それでも分からないところを先生に質問することもよくありましたが、こうしたことも合格への原動力になったと思います。

自分が成長したり新司法試験に合格するために必要な「宝物」は何もせずに与えられるのではなく、自分で行動することによって獲得するものだと思います。関東学院法科大学院は、自分から積極的に質問や要望を投げかけていくことで、先生方から「宝物」をどんどんもらえるロースクールです。私は関東学院法科大学院を選び、進学して、先生方をはじめ、よき同期や後輩に出逢うことができて、本当に良かったと感じています。充実した2年間を過ごすことができました。すぐ近くにこうした頼りになるサポーター達がいてくれたおかげだと感謝しています。

新司法修習後は、地元・横浜のマチベン(町の弁護士)として、一般民事事件を一人前に解決できるように日々精進しつつ、徐々に法テラスや弁護士会の委員会活動等の公的役割をも担っていきたくと考えています。

Ms. Yoshiko Inoue successfully passed the New Law Examination in 2006. She graduated from Kanto Gakuin University Law School as one of the first graduates in March 2006. Here is a summary of the interview with her: The reason why Ms. Inoue entered KGU Law School was that she longed to enter an occupation in law so she could strive for justice throughout her life. Nothing will come from nothing. She said that she thought the necessary treasure for her was to grow up and to pass the New Law Examination, and she believes that this achievement is to be acquired by way of one's own action. In fulfilling her dream, she acquired such a treasure from her professors at the KGU Law School. She would like to express her gratitude to her professors, good classmates in her graduating class and her juniors, because they were all trustworthy supporters. Thanks to them, she could lead a full school life at Kanto for two years.

ユニークな授業

工学部「教養セミナー—現代芸術論—」 渡辺えり子先生・吉原高志先生 「アジアの遺伝子を吸収して」



工学部教養科目として配置されている「教養セミナー」は副題を「現代芸術論」とし、主に小演劇について学ぶことのできる科目だ。演劇は、劇作、演出、舞台装置、舞台美術、衣装、音楽、照明、演技などの複合、総合芸術であり、また、工学的技術を実践、利用する場でもある。

2006年4月演出家、劇作家であり、数少ない女性劇団主催者でもある渡辺えり子氏を客員教授に迎えた。

10月6日(金)
授業開始。簡単な自己紹介の後、彼女は自ら点呼で出欠をとる。学生全員も自己紹介をする。彼女はメモをとり、学生さんの氏名、学年、学部、学科を書きとめてゆく。他学部受講が可能なの

科目だけでなく工学部のみでなく、文学部・経済学部・人間環境学部と各学部の受講者が顔をそろえた。

その日19・30から控えている公演の話に…。彼女が戯曲を書いた「夢ノかたち」

第一部「私の船」 第二部「緑の指」には、彼女の人生が込められている。演劇漬けだった舞台芸術学院時代、なかなか芽がでない劇団生活に彼女は悩んでいた。演劇だけで食べていくことももちろんできず、夜、ホステスという仕事を通じて彼女は芝居以外の世界を見、学んでいく。

家庭では決して見せることのない、男性の弱さや、ずるさ、情けなさ、そんな救いのない、けれど愛すべき駄目おじさんを書いた「ゲゲゲのゲ」という作品で、初日30名の観客が楽日には350名を動員する。この戯曲は岸田戯曲賞を受賞し、彼女は演劇界で認められていく…。

彼女にとって、人生の転換期と言える数年間を過ごしたアパートでの出来事をつづつた今回の作品。学生たちに生の舞台が勧められた。

12月15日(金)
芝居の成り立ちについて。日本の演劇といえば歌舞伎。しかし通常のお芝居と違い、歌舞伎は原則、世襲制で代々継がれていくものであり、一般の人に簡単に出来るものではない。

歌舞伎は一人で何十人もの役を演じ、雨や風の音なども表現する。花や動物や、時には幽霊と会話をするシーンもある。日本人の思想は人間も自然の一部という考えなのだ。アミニズム的思考と言ってもよいかもしれない。

それに比べ、一人一役や人間中心と考えるのが欧米の演劇である。

最近日本人は欧米化され、わかりやすく簡単なものしか受け入れられない発想になりがちである。

だからこそ日舞や三味線、歌舞伎の衣装、舞台、音楽に注目して、アジアの遺伝子を吸収してほしい。

何事も30歳まではがむしゃらに諦めず頑張ってほしい。

12月22日(金)
今年度最終回の授業では芝居の実践(エチュード)が行われた。二人一組で、「友達」というのはどういう存在か考えつつ「おはよう」の挨拶を交わす。

・仲の良い友人の場合↑たいがい元氣良くにこやかに挨拶。



Asian DNA in Japan's Performing Arts Ms. Eriko Watanabe's unique seminar Through the Arts and Sciences Seminar (subtitle 'Modern Arts Theory') offered in the College of Engineering, students can study the small theater. As of April 1st, 2006, the College welcomed Ms. Eriko Watanabe, Director, Playwriter and leader of a theatrical company, as a visiting professor. Ms. Watanabe said emphatically, "Modern Japanese Drama has been westernized. This is evidenced in Japanese dance, shamisen performances, Kabuki costumes, as well as its stage and music. Even so, Asian DNA still permeates these performing arts."



・苦手な友人の場合↑露骨に避ける場合と、相手に伝わらないようにあえて丁寧な挨拶。

気持ちは変えるだけで相手に対する姿勢も変わってくる。日常では感情を出せない場面が多いが、演技の上では少しボリュームを上げて表現してみることが大事。演技によって、普段気づかない気持ちや認識することもできる。その後5人で一組となって、クリスマスをテーマにした寸劇を作って発表した。

即興芝居は一番初めに演じた人のルーに合わせる必要がある。相手の話をよく聞き、言葉ではなく動きや視線などで相手に感情を受け渡すことがコミユニケーションで大切なことという。演出や演技を体験して、改めて、コミユニケーションの大切さも実感できたようだ。

吉原高志先生曰く
「この授業の目標はいつかこの講義の延長として、実際に舞台を作ること。総合大学でみんなの英知を結集する。建築の学生が舞台を組み、舞台音楽や照明を作る人が出てくる。役者やスタッフ、この中から一人でも二人でもこの後、実際にその道に進む人が出てきて欲しい。何年後、えり子さんと一緒に舞台を作ろう！」素敵な授業。もちろん来年の開講が予定されている。

ポエトリ・リーディング講座(第1回)が開かれる



略歴：東京生まれ。津田塾大学国際関係学科卒業後、法律専門出版社に勤務しながら詩の発表を始める。97年に「永遠に來ないバス」(思潮社)で第15回現代詩花椿賞を、2000年に「もっとも官能的な部屋」(書肆山田)で高見順賞を受賞。初のエッセイ集「屋上への誘惑」(岩波書店)で2001年度講談社エッセイ賞を受賞。2004年初めての小説「木を取る人」を「群像」4月号に発表。2004年6月には初の短編集『感光生活』(筑摩書房)が刊行された。

第2回ポエトリ・リーディング

詩人のアーサー・ビナードさん
6/16(土) 14:00~15:30
KGU関内メディアセンター

2006年11月4日(土) 14:00~15:30にKGU関内メディアセンターでポエトリ・リーディング講座(第1回)が開かれ、詩人の小池昌代さんが、ご自身の作品を朗読され、受講生たちは文字で書かれた詩とは別の世界に誘われました。

ポエトリ・リーディングは元来アメリカやヨーロッパを中心に文字の文化から声の文化を取り戻す趣旨で行われてきましたが、同時に詩人自身の声を聞いて作品をより良く鑑賞する機会でもあります。現在、日本でも盛んに行われているのは周知の通りで、現代詩の声の復権をポエトリ・リーディングが担っているといつて良いでしょう。

その日本での先駆的役割を担ってきたのが、1968年に発足した「関東ポエトリ・センター」でした。これまで夏休みを利用して行ってきた「関東ポエトリ・セミナー」が、事実上終息しています。再開を期待する声を良くいただきますが、諸般の事情により実現は困難です。そんな状況の中で、公開講座として年に2回ほどポエトリ・リーディングを継続していきたいと願っています。第1回目として、詩人・エッセイスト・小説家としてもご活躍の小池昌代さんをゲストに、詩の朗読とお話を聞く会を持ちました。



Poetry Reading Begins in Life-Long Education Center
Poetry reading as a course offered by the Life-Long Education Center at KGU's Kannai Media Center was held for the first time on November 4, 2006. Ms. Masayo Koike, a poet, gave a reading of poetry composed by herself.

Poetry reading is now very popular in Japan. Its cue must have come from the Kanto Poetry Center at Kanto Gakuin University established in 1968. The Center's main activities have been to hold the annual Kanto Poetry summer seminar and to publish *POETRY KANTO*, a bilingual journal. The annual summer seminar has in recent years ceased to exist, but there are high expectations from many that it will once again be convened in the near future. The University has decided to start Poetry Reading twice a year as a course in the Life-Long Education Center, and Ms. Koike's course was the first one.

The Kanto Gakuin University Life-Long Education Center was established in April, 2002. In the academic year of 2007, the Center will offer many courses such as open classes, classes about hobbies, courses for qualifications, sports and recreation. For more detailed information, see the list below.

KGU's Contribution to Society through Contests
KGU's contribution to society is noted in two contests held annually. One is the KGU Poetry Contest for senior high school students in Japan. The other is an Essay Contest with the theme: My Best Teacher. This contest is open to junior high students and above.

Awards ceremonies for these two contests were held on the Kanazawa Hakkei campus. The Poetry Contest's ceremony was held on October 5, and the Essay Contest's ceremony was held on December 16, 2006.

These annual activities embody Kanto Gakuin's school motto, "Be a man, serve the world".

The 4th KGU Business Plan Competition 2006 Held

On December 16, 2006, the 4th Kanto Gakuin University Business Plan Competition 2006 was held on the Kanazawa Hakkei campus. This competition consists of two sessions and is open to all KGU students. One session is the general session which includes business plans from daily life, and any type of business is acceptable for presentation. The other theme session this year was "Living close together with prosperity: Kanazawa Hakkei and its town created by students". In each session, many business plans with unique and fresh ideas were presented.

The Steering Committee for this competition consists of student volunteers who help general participants, for example, on how to hold a training course on presentations. These volunteers also make contact with KGU graduates and workers involved in venture businesses in Yokohama in order to apply the results of this competition in the business sector in the future.

ビジネスプラン・コンペティション2006が開催される

2006年12月16日(土)金沢八景キャンパスにおいて「関東学院大学ビジネスプラン・コンペティション2006」が開催されました。2003年から始まり4回目を迎える今年も素晴らしい作品が出揃いました。このコンテストは関東学院大学の全学生を対象にビジネスプランを募集し、その新規性や独創性、実現性を競い合うもので、2部門制で審査が行われます。一般セッションでは、「こんな商品があったら売れる」「私はこんな会社を興したい」など、私たちの日常からビジネスのアイデアを見出し、それをプランにしていきます。業態・業種は問いません。学生らしい瑞々しいアイディア・発想が求められます。しかし同時に実現性も求められるため、非常に厳しい審査がなされます。テーマセッションでは、テーマを一つ設け、それに沿ったアイデアを募集します。今年は、ここ金沢八景と学生との関係を見直し、支えあう街づくりを目指して「共栄 ～金沢八景と学生が創る街～」となっています。



実行委員会は会社のように組織化され、彼らは自分の役割を果たしつつ仕事を楽んでいる。コンテストに参加する人々へ、プレゼンテーションのためのパワーポイントの講習会を開いたり、本学卒業生同窓会である燦葉会の人々とのつながりや、教員を介して知り合う横浜の起業家との付き合いを大切にする。それが今だけではなく、未来につながる糧になるように行動しています。実行委員の皆さんはすでに小さな企業家のようなのです。受賞の詳細や受賞者のコメントは次のホームページをご覧ください。

<http://home.kanto-gakuin.ac.jp/~bpc/>



コンテスト主催で社会に奉仕する大学

詩のコンテスト

2004年から始めた「高校生の詩～伝えたいこの想い～」コンテストです。これは全国の高校生を対象に広く創作詩を募集する企画です。第3回は、北海道から沖縄までの全国291校に在籍する生徒の皆さんから、第2回を大幅に上回る4,238篇(日本語部門4,108篇・英語部門130篇)の詩が寄せられました。

作品は、一人ひとりの体験に基づいた父母や友人への尊敬、感謝の思い、人間同士の助け合い、前向きに生きようとする気持ち、地球環境問題や海外の貧困や戦争に対する怒りや悲しみなどをテーマとしたものが例年より多数寄せられました。

2006年10月28日に大学12号館で表彰式が挙行されました。当日は受賞高校生16名と団体賞受賞高校教諭2名への表彰に続き、祝賀パーティーが行われ、受賞者の喜びの音が聞かれた。



エッセイコンテスト

2005年から始めた「心にのこる最高の先生」エッセイコンテストです。これは全国の中学生から一般までを対象に創作エッセイを募集する企画です。第2回は、中学生・高校生部門218名、一般(大学生を含む)部門215名でした。日本全国はもちろんアメリカ合衆国、英国、ニュージーランド等、外国在住の方々からの応募もありました。この中には外国人の方々もいました。

2006年12月16日に大学エテルニテ館で表彰式が挙行されました。当日は受賞者二名への表彰に続き、祝賀パーティーが行われ、受賞者の喜びの音が聞かれました。

最近、第1回・第2回受賞作品集を読まれたT発行社から一冊の本にして発行したい旨の申し出を受けました。それ程にこの企画は社会のニーズに合ったもので、優秀作品が多いことを証明しているといえましょう。



■ (2007年度 開講予定) 公開講座 (春学期) 一覧

※資格講座・公開講座についての詳細は、生涯学習センター (Tel.045-786-7892) にお問合せください。または、関東学院大学のホームページ (生涯学習センター) をご覧ください。

実施場所	講座名	実施場所	講座名	実施場所	講座名
八景キャンパス	「韓国語入門」	関内メディアセンター	「やさしいパソコン講座」	八景キャンパス	3級ファイナンシャルプランニング対策講座
八景キャンパス	「木工教室」	関内メディアセンター	「はり絵で作る名画初級1と2」	八景キャンパス	旅行業務取扱管理者対策講座
八景キャンパス	「ラッピングコーディネーター」	関内メディアセンター	「ラッピングコーディネーター」	八景キャンパス	初級システムアドミニストレータ試験対策講座
八景キャンパス	「フランス語会話」	関内メディアセンター	「韓国語入門」	八景キャンパス	販売士2級対策講座
八景キャンパス	「やさしいパソコン講座」	関内メディアセンター	「哲学5」	八景キャンパス	マイクロソフトスペシャリスト講座
八景キャンパス	「韓国語初級1」	関内メディアセンター	「商店街大学第3回」	八景キャンパス	簿記検定2級講座
八景キャンパス	「中国語入門」	関内メディアセンター	「福祉入門」	八景キャンパス	簿記検定3級講座
八景キャンパス	「中国語中級」	関内メディアセンター	「実用パソコン講座1と2」	八景キャンパス	インテリアコーディネーター2次対策講座
八景キャンパス	「暮らしの中の色彩講座」	関内メディアセンター	「平和について語る」	八景キャンパス	2級建築士
八景キャンパス	「コンサートシリーズ第8回」	関内メディアセンター	「第2回ポエトリ・リーディング」	八景キャンパス	福祉住環境3級対策講座
八景キャンパス(室の木)	「鎌倉彫教室入門」	小田原キャンパス	「韓国語初級1」	八景キャンパス	カラーコーディネーター3級対策講座
八景キャンパス	「日本の文化(大学で寄席を)」	小田原キャンパス	「防犯について」	八景キャンパス	教員試験対策講座
八景キャンパス	「イタリア都市紀行4」		春学期 合計31講座	八景キャンパス	公務員講座(秋学期)
八景キャンパス	「楽しい人生の処方箋3」			八景キャンパス	TOEIC受験対策講座
八景キャンパス(室の木)	「陶芸教室1「親子」	八景 文庫 小田原	秘書検定2級講座	八景キャンパス	公務員(栄養士・保育士)講座
杉田ゴルフ場	「健康スポーツ講座ゴルフ」	八景キャンパス	インテリアコーディネーター対策講座	八景キャンパス	秘書検定準1級講座
文庫キャンパス	「健康スポーツ講座ラグビー」	八景キャンパス	宅地建物取引主任者講座	八景キャンパス	春学期 合計21講座
文庫キャンパス	「英会話」	八景キャンパス	ホームヘルパー2級養成講座		
関内メディアセンター	「自治体経営の実践」経済学部	八景キャンパス	公務員講座(春学期)		

The University chapel on Kanazawa Hakkei campus of Kanto Gakuin University was the venue for Kanto Gakuin's 122nd anniversary celebration on October 6, 2006.

Continuous service awards for the faculty and the staff were given to eight persons (35 years' service), seven persons (25 years' service), respectively.

The Christian Education Activities

The Kanto Gakuin Christmas Concert was held at the Minatomirai Hall on the evening of December 15, 2006. In the first part pupils from our kindergartens, elementary schools and high schools participated in the pageant of the Nativity story. In the second part the Kanto Gakuin Choir and the Society of Classical Music performed Haendel's Messiah.

関東学院創立122周年記念式挙行される

2006年10月6日（金）、関東学院は創立121周年を迎えました。式典としては、大学金沢八景キャンパス礼拝堂において、10月7日（土）午前9時30分から祈祷会、続いて10時30分から記念式典が挙行されました。記念式では永年勤続者の表彰が行われ、勤続満35年教職員8名、勤続満25年教職員7名が表彰されました。



表彰受賞者

永年勤続表彰受賞者(35年)

大 学	野田 清	神藤 敬子	星井 玲子	牧野 哲也	池田 和男	河合 輝一郎	江口 欣宏	菊川 薫
中学・高等学校								
法人事務局								

永年勤続表彰受賞者(25年)

大 学	神谷 是行	木村 新	森田 初男	矢嶋 道文	松浦 晴美	吉川 佳也子	山野 香
法人事務局							



帰国後の活動

ジェニンス博士夫妻は一九五九年に休暇帰国した。再び戻って来られることを日本の関係者は期待していたが、やむを得ない事情により、日本に戻る事がなかった。
博士は一九六〇年一月にカンサス州オタワの第一バプテスト教会牧師として招聘された。と同時に、オタワ大学の宗教主任および新約聖書学教授になっている。この大学は、一八

関東学院の源流を探る-25の続き

明治初期には、キリスト教会は文化的展開において主導権を持っていた。しかしやがて教会は自分たちの存在の目的を忘れて、殻に閉じこもってしまった。日本文化に真剣に直面したことが、日本の教会の発展を阻んだのではなかったか。福音が日本文化にどう応えるか、日本の教会は問うていかねばならない。日本におけるプロテスタント宣教百年と本学神学部開設にあり、これを真剣に受け止めなければならぬ、と博士は訴える。

六五年創立で、アメリカ・バプテスト教会と関係が深い。少数精鋭主義のいきとどいた教育が行なわれていることでよく知られている。博士はさらに次の教会牧師を歴任した。カリフォルニア州バークレーの第一バプテスト教会（一九六八―七五年）、ニューヨーク州シラキューズの第一バプテスト教会（一九七五―七八年）、首都ワシントン特別区のナショナル・バプテスト記念教会（一九七八―八一年）。また博士は、一九八一―九〇年、アメリカ・バプテスト教会広報部門のスタッフとして働いた。「アメリカ・バプテスト・マガジン」誌の記者兼解説者、「インプット」誌の編集者兼執筆者をつとめた。一九九〇年一月に、カリフォルニア州モラガ・ヒルズ・コミュニティ教会牧師に任じられている。
このような経歴からわかるように、博士は多彩な賜物を生かして、精力的に活動した。また博士は日本、とくに関東学院大学における若い日の経験を忘れず、世界宣教に終生関心を持っていた。また公民権運動、社会活動にも積極的に関わってきた。

学院役員・教職員人事

退任役員

①役職 ②退任年月日 (2007年2月28日現在)

松本 昌子

まつもと まさこ
①学院長
②2006年(平成18年)10月7日

合田 邦雄

ごうだ くにお
①理事
②2006年(平成18年)12月28日

桐木 仁志

きりぎ ひとし
①理事
②2006年(平成18年)9月30日

J.A.アーマガスト

①理事
②2006年(平成18年)10月3日

吉澤 寿朗

よしざわ としお
①監事
②2006年(平成18年)10月3日

C.J.プレドモア

①監事
②2006年(平成18年)10月3日

岡田 慎之助

おかだ しんのすけ
①監事
②2006年(平成18年)10月3日

①最終学歴 ②役職 ③就任年月日(2007年2月28日現在)



D.P.デビットソン

①プリンストン神学校
②理事
③2006年(平成18年)10月4日



沖山 文敏

おきやま ふみとし
①信州大学大学院工学系研究科
②理事
③2006年(平成18年)10月1日



秋山 薊二

あきやま けいじ
①ダルハウジー大学社会福祉大学院
②理事
③2007年(平成19年)2月22日



森島 牧人

もりしま まさと
①東京神学大学院神学研究科
②学院長
③2006年(平成18年)10月8日



天野 昭一

あまの しょういち
①東京農林専門学校(現 東京農工大学)
②監事
③2006年(平成18年)10月4日



J.A.アーマガスト

①カンザス大学英語教育専攻
②監事
③2006年(平成18年)10月4日



田野井 一雄

たのい かずお
①明治大学文学部日本文学科
②監事
③2006年(平成18年)10月4日

①最終学歴 ②所属 ③専門科目 ④就任年月日



居城 琢

いしろ たく
①横浜国立大学大学院
国際社会科学研究所 博士(経済学)
②大学 経済学部社会連携プロジェクト
④2006年(平成18年)12月1日



加藤 浩美

かとう ひろみ
②大学 工学部機械工学科 技師補
④2006年(平成18年)11月1日



西海知 隆

さいかち たかし
①関東学院大学大学院工学研究科
②中学校・高等学校 教諭
③数学科
④2007年(平成19年)1月1日



鳥澤 円

とりさわ まどか
①一橋大学大学院法学研究科 博士(法学)
②大学 法学部法律学科 専任講師
③法哲学
④2006年(平成18年)10月1日

新任ポスト・ドクター 研究員

新任嘱託教務職員

新任契約講師

新任教員

Employed and Retired Members List of Kanto Gakuin Personnel

7 New Members of the Board of Trustees
1 New Faculty Member
1 New Faculty Member
Employed Temporarily
1 New Assistant Staff
Employed Temporarily
1 New Post-Doctorate Researcher
7 Retired Members of the Board of Trustees

関東学院 各校 NEWS

大学

工学部機械工学科
阿久津敏乃教授、
2006年度
Young Scientist Awards®
受賞

ドイツ(ゲッチンゲン)で行われた
12th International Symposium on
Flow Visualizationにおいて、本学流
体工学研究室のDynamicPIV 設備を
用い、早稲田大学およびオーストラリ
アCSIROとの共同研究の発表が2006
年度Young Scientist Awards (63演
題中3題が選出)を受賞しました。

QUENY STRESS ON BLOOD
CELLS DOWNSTREAM OF AN
ARTIFICIAL HEART VALVE」。
[Abstract of the 12th International
Symposium on Flow Visualization,
2006, 29]に掲載されました。

9月12日に横浜国立大学で開催され
た日本材料科学会第13回材料科学若手
研究者討論会にて高橋勝さん(工学研
究科工業化学専攻博士後期課程3年/
山下嗣人研究室)が「優秀賞」(発表
題目:平滑な銅箔とプリント樹脂基材
の高接着化における自己組織化シラン
単分子膜の応用)を受賞しました。

博士前期課程建築学専攻2年の池上
高士君(湯澤研究室)が光田祐介君
(2004年3月博士前期課程修了)
現スタート株式会社勤務・湯澤研究室
出身)と組んで出した案「指先で変え
るセカンドライフ」が下記のように入
賞しました。

「9坪ハウス」コンペ2006 プロ部
門(建築家、建築を学ぶ学生対象)
テーマ 電9(電化9坪ハウス)と暮
らす。セカンドハウス。
審査員 阿部仁史、五十嵐太郎、藤本
壮介ほか
受賞審査員の一人である萩原修賞

関野晃一君、
日本非破壊検査協会の
平成18年度秋季講演大会で
「新進賞」を受賞

大学院工学研究科機械工学専攻博士
後期課程1年の関野 晃一君(機械工
学専攻、清水研究室)は、平成18年10
月26日、27日に名古屋国際会議場で開
催された日本非破壊検査協会の平成18
年度秋季講演大会において発表した論
文「光干渉法と超音波可視化法を併用
した手法によるき裂の評価」により、
若手の優秀な研究発表に対して授与さ
れる新進賞を受賞しました。

人間環境学部が
ISO14001認証を取得

人間環境学部では、2002年度の
新設以来、環境を主要テーマに掲げ
教育・研究を行ってきました。更に
環境保全を人間環境学部の重要なテ
ーマとして位置付けるため、ISO
14001の認証取得を計画し、2006
年度からシステム整備を行ってしま
したが、2007年1月に審査機関
による審査を受け、2月14日付けで
日本環境認証機構より適合の認証を
取得しました。



伝統の大学主催シェイクスピア英語劇第55回公演
『ヴェニスの商人』で「いのち」
の尊さが縦糸に



48年から続く伝統
のシェイクスピア
英語劇は、06年12
月8日、10日まで
神奈川県民共済み
のシエイクスピア
英語劇は、06年12
月8日、10日まで
神奈川県民共済み

三人の観客の劇評を抜粋引用し、成功
裡に幕をおろした舞台を紹介します。
「なんでもありの」ごった煮の世界・
(小田島雄志氏)に、「いのち」の尊さ
という太い縦糸を通して「ヴェニスの
商人」の劇世界を透明な調和のタペス
リーに織りあげた。その演出が秀逸で
ある。シャイロックも含めて、ヴェニ
スにおける貿易商人アントーニオをめ
ぐる様々な人物たちの人生模様を鮮や
かに描きだして、爽やかな感銘を与え
た。(関場理一氏)

「何よりすばらしかったのが、学生さ
んたちをはじめとした観客の皆さんと
舞台の出演者との一体となった「場」
の共有感でした。(高木登氏)
「3時間ほどの長丁場の英語劇も驚き
ですが、舞台装置から演出&キャスト
の本格的なものには英語演劇の歴史を感
じました。本当に素晴らしかったで
す。」(Y.N氏)

2006年度 主な課外活動成績 (団体)		
クラブ名	大会名	戦績
硬式野球部	神奈川大学野球 春季リーグ	優勝
	第55回全日本大学野球選手権大会 神奈川大学野球 秋季リーグ	優勝
陸上競技部	箱根駅伝予選会	15位
	全日本大学駅伝予選会	17位
アメリカンフットボール部	関東大学秋季リーグ(1部Aブロック)	6位
	春季神奈川県学生剣道大会(男子) 春季神奈川県学生剣道大会(女子)	優勝 準優勝
剣道部	第42回基督教関係大学剣道大会	3位
	秋季神奈川県学生剣道大会(男子) 秋季神奈川県学生剣道大会(女子)	準優勝 優勝
	神奈川県大学サッカー秋季リーグ戦(1部)	準優勝
サッカー部	神奈川県知事杯争奪戦	3位
	総理大臣杯神奈川県大会	準優勝
柔道部	神奈川県学生柔道春季大会	優勝
空手道部	春季関東学生会定期リーグ戦 (女子2部リーグ):1部へ	優勝
	春季関東学生会定期リーグ戦 (男子1部リーグ)	3位
	秋季関東学生会定期リーグ戦 (女子1部リーグ戦)	優勝
	秋季関東学生会定期リーグ戦 (男子1部リーグ戦)	準優勝
卓球部	第33回神奈川県学生空手道選手権 (男子団体組手)	3位
	全国空手道選手権大会(男子団体組手) 全日本大学空手道選手権大会(男子団体組手)	ベスト8 ベスト16
卓球部	春季神奈川県下大学卓球大会(女子) 春季関東学生卓球リーグ戦(男子3部)	3位 4位
	春季関東学生卓球リーグ戦(女子4部) 春季関東学生卓球リーグ戦(男子3部)	2位 3位
射撃部	春季関東学生ライフル射撃選手権大会	10位
航空部	原田覚一郎杯 チーム	3位
ヨット部	第107回神奈川5大学対抗戦 (スナイプ級・470級・総合)	優勝
	関東学生女子ヨット春季選手権大会 (スナイプ級)	2位
	関東学生ヨット春季選手権大会 (スナイプ級・470級・総合)	5位
水泳部	第108回神奈川5大学対抗戦 (スナイプ級・総合)	優勝
	関東学生女子ヨット秋季選手権大会 (スナイプ級)	5位
ソフトテニス部	関東学生ヨット秋季選手権大会(総合)	6位
	春季四大学対抗戦(総合)	優勝
準硬式野球部	関東学生春季リーグ戦(7部)	4位
	神奈川県学生春季リーグ戦	5位
ハンドボール部	神奈川大学準硬式野球春季リーグ戦	2位
	神奈川大学準硬式野球秋季リーグ戦	優勝
バスケットボール部	関東学生ハンドボール春季リーグ戦(2部)	2位
	神奈川県学生バスケットボール春季大会(1部)	4位
ラクロス部	第82回関東大学バスケットボールリーグ戦 (3部Bブロック)	3位
	第19回関東学生ラクロスリーグ戦 (男子3部Bブロック)	3位
硬式庭球部	第19回関東学生ラクロスリーグ戦 (女子4部Aブロック)	3位
	関東大学対抗テニス選手権大会(男子)	6位
バドミントン部	関東大学テニスリーグ戦(男子2部)	6位
	関東大学テニスリーグ戦(女子3部)	3位

バドミントン部	関東大学秋季リーグ戦(男子2部) 関東大学秋季リーグ戦(女子2部)	6位 6位
スピードスケート部	日本学生氷上競技選手権大会 (男子2部) 総合	3位
ウインド サーフィン部	2006年全日本学生ボードセーリング 選手権大学対抗戦 団体戦	4位

2006年度 主な課外活動成績 (個人)				
クラブ名	氏名	大会名等	戦績	
硬式野球部	原 拓也	西武ライオンズドラフト指名		
	村山雄一主務	平成18年度日本学生野球協会表彰		
陸上競技部	小沢 計義	箱根駅伝関東学連選抜チーム選手	第7区	
	坂本 智史	箱根駅伝関東学連選抜チーム候補選手		
剣道部	坂本 智史	第21回田沢湖マラソン(20km)	優勝	
	鹿又 春奈	全日本女子学生剣道大会	1回戦進出	
空手道部	林 博城	全日本学生剣道大会	3回戦進出	
	牧野 智恵	神奈川県大学空手道選手権大会	優勝	
	小出 修也	神奈川県大学空手道選手権大会	準優勝	
	岡田 達宜	神奈川県大学空手道選手権大会	優勝	
	大里 奈緒	春季関東学生会定期リーグ戦	ベスト8	
	堀越 均治	第33回神奈川県空手道選手権大会	準優勝	
	渡部 潤二	第33回神奈川県空手道選手権大会	4位	
	菅原 千秋	第33回神奈川県空手道選手権大会	3位	
卓球部	平野・佐藤	春季県下リーグ戦(女子ダブルス)	準優勝	
	平野 智子	春季県下リーグ戦(女子シングルス)	優勝	
	秋山・安部	秋季県下リーグ戦(男子ダブルス)	準優勝	
	平野・佐藤	秋季県下リーグ戦(女子ダブルス)	3位	
ヨット部	長谷 美和子 武井 菜々美	全日本学生女子ヨット選手権 関東水域選考レース(スナイプ級)	3位	
	菊地 芽衣子 竜崎 里紗	全日本学生女子ヨット選手権 関東水域選考レース(470級)	11位	
	安嶋 富弘 仁井田 龍求	関東学生ヨット個人選手権大会 (スナイプ級)	6位	
	長谷 美和子 武田 智徳	関東学生ヨット個人選手権大会 (スナイプ級)	7位	
	斉藤 浩二 瀧本 淳	関東学生ヨット個人選手権大会 (470級)	7位	
	市古 晃徳 小島 正敬	関東学生ヨット個人選手権大会 (470級)	9位	
	自動車部	伊藤 馨 (チーム)	RA: Cupカー大学対抗60分耐久レース	3位
	カヌー部	石田 紀明 荒井 一樹 巨 武尊 大里 尊聡	日本カヌーフラットウォーター レーシング選手権大会 200m、K-4	優勝
		菅井 啓太 瀬野 泰博 船田 圭祐 野沢 孝也	日本カヌーフラットウォーター レーシング選手権大会 200m、 C-4/500m、C-4/1000m、C-4	各種目 3位
	射撃部	村松 照泰	首都 十大定期戦(AR76人中)	2位
鈴木 悠		首都 十大定期戦(AR76人中)	1位	
ウインド サーフィン部	富澤 慎	青島インターナショナルレガッタ(オリ ンピックテストイベント)RSX級	17位	
		第61回国民体育大会本大会 新潟県選手	3位	
		JSAFオリンピックウィーク	1位	
		アジア選手権大会	2位	
	中井 忠則	ISAF World Sailing Games 2006 RS:X級	16位	
バドミントン部	黒井 一貴	全日本学生ボードセーリング選手権	5位	
水泳部	高梨 健太	第61回国民体育大会本大会 新潟県選手	4位	
		東日本理工系大学選手権 水泳競技大会		

University

Dr. Toshinosuke Akutsu, Professor of Mechanical Engineering, received the Young Scientist Awards at the 12th International Symposium on Flow Visualization, held in Göttingen, Germany in 2006. The presentation of the results of his research using Dynamic PIV equipment at KGU fluid engineering laboratory was in cooperation with Waseda University and CSIRO in Austria.

Mr. Masaru Takahashi, a third year graduate student in the Graduate School's Industrial-Chemical Engineering program under the supervision of Dr. Tsugito Yamashita, was awarded the Excellent Award Prize of the 13th Japan Material Science Young Fellows' Discussion held at Yokohama National University on September 12, 2006.

Mr. Takashi Ikegami, a second year graduate student in the Graduate School's Architecture program and Mr. Yusuke Mitsuda, a graduate from the same School, under the supervision of Dr. Masanobu Yuzawa, received the Hagiwara Osamu Award of the 9 Tsubo House Competition in 2006. For more detailed information, access the following home page address:
http://www.9tubohouse.com/compe2006/

Mr. Koichi Sekino, third year graduate student in the Mechanical Engineering major in Graduate School under the supervision of Dr. Koji Shimizu, received the Shinshin (up-and-coming) Award for young researchers at the Fall Presentation Meeting held by the Non-Destruction Scrutiny Association in Nagoya from October 26 to 27, 2006.

Under the auspices of Kanto Gakuin University, the 55th production of a Shakespeare English Drama was performed three times at the Kanagawa Kenmin Kyosai Mirai Hall from December 8 to 10, 2006. The play, "The Merchant of Venice", was performed by 43 university students on each of the three days. A large audience in the hall highly appreciated the production sponsored by Yokohama City, as well as others. The text used was the same one as used by the National Theatre.

College of Human and Environmental Studies Campus Is ISO 14001 Certified
On February 14, 2007, the College of Human and Environmental Studies received the certificate of attestation of ISO 14001.

The College has conducted education and research while carrying the banner for 'Environment' as its main theme since 2002. In order to put 'Environmental Preservation' as an important theme at the College, there has been a plan to attain the certificate of attestation of ISO 14001 since 2005. From that time the College began to implement the environmentally friendly system, and thus the ISO 14001 certificate was finally awarded to the College on February 14, 2007.

The Track and Field Athletic Club Record is listed among the main sports clubs of Kanto Gakuin University in the 2006 academic year.

[注] この成績は、各クラブから学生生活課に提出された活動報告書に基づき、広報課で編集したものです。 ※ラグビー部の活動成績は、1~4頁を参照下さい。



しいものであります。この十字架も広
さが必要なことから中庭の寒空の下、
生徒も教員も凍えながら練習を繰り返
します。

音楽を担当する部門もそれぞれが昼
休みや放課後を利用して練習を行いま
す。クラブとしての母体があるものば
かりですが、トーンチャイムだけはこ
の期間限定の有志グループなので、毎
年メンバーが異なり、学年を越え初め
て会う者同士で短期間に曲を仕上げ
ることが最大の課題になっています。い
つもよく練習されていて今回も素晴ら
しい演奏でした。

当日は、朝早くから学校で荷物や楽
器を積み込み、午前中は舞台設定、音
響の調整、そしてリハーサルを行いま



す。このとき、本校受験希望者等にリ
ハーサルを公開し、学校の雰囲気を感じ
ていただく機会としております。そ
して、午後三時半より
全校生徒、出席希望の
保護者等と共に礼拝を
守りました。一部生徒
の中には、礼拝の意味
を理解しない者もあり
ますが、中高で体験し
たこうした行事によ
り、彼らの心にも種が
蒔かれていることを確
信します。主のご降誕
を学校を挙げて祝うこ
とができて感謝です。

Kanto Gakuin Elementary School

On November 27, 2006, a special worship service for global understanding was held at our chapel. The preachers were Mr. Kazuyuki Sasaki, a volunteer worker for Rwanda's people for peace and reconciliation, and Rev. Filbert Carisa from Rwanda. On the same day, a speech by the same speakers for the pupils' parents and a get together meeting among 5th and 6th graders and the guests were held. The School has already decided to support people in Rwanda by supporting Mr. Sasaki and his work.



佐々木先生の支援者、関東
学院小学校の児童たちはお二
人をお招きし直接、話をお聞
きすることでルワンダを身近

ち、児童からの質問を受ける
形で話を進めました。ルワン
ダの子どもたちの遊びや生活
について、食べ物について、
平和について。児童は、具
体的な質問にお答えいただく
ことでより深くルワンダの現
状と先生方のお働きの意味を
理解したようでした。

十一月二十七日(月)に、ルワンダで
活動をしている佐々木和之先生と、フ
イルバート・カリサ牧師をお招きして
特別礼拝(国際理解のため)、保護者
対象の講演会、五、六年生との交流会
を行いました。

礼拝では、スクリーンに何枚か現地
での写真を大きく映し出してルワンダ
についての話をしてくださいました。



私たちはその中でも、とりわけとても
心を動かされた一枚の写真がありまし
た。それは、自分の夫を殺された女性
が、殺した側の部族の女性と一緒にほ
ほえみ合っているものです。憎しみ合
いから和解に向けて動いているルワン
ダの国の人たちについての話を感銘深
く聞くことができました。

午後は、五、六年生との交流会を持
ち、児童からの質問を受ける

小学校

教頭
名取 俊夫

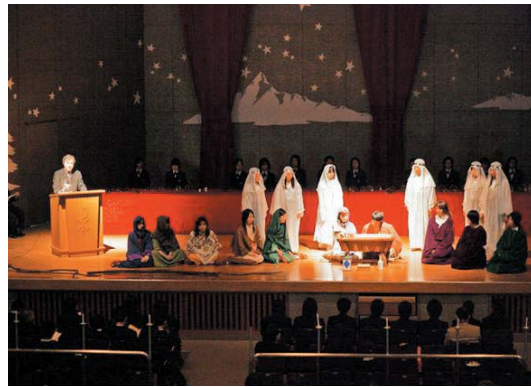
佐々木和之先生、フィルバ
ート・カリサ牧師をお招きして

中学校 高等学校

教頭
篠原 望

キャンドルライトサービス

去る十二月二十日(水)十八時より
中高グレッセット礼拝堂でキャンドルラ
イトサービスが行われた。中高のそれ
は教職員、在校生、在校生保護者も
ちろんのこと、卒業生や本校を受験す
る予定の小学生とその家族などに広く
開放する形で行っている。今年も多数
の方が来場し開始を待たずに幅広い年



年齢で座席は
埋まった。主
な内容は招
詞、讃美歌、
聖書朗読、祈
捧、OCCの
ハンドベル演
奏、高校生に
よるページ
ェントと続き、いよいよ蠟燭点火。次に
今年のメッセージをお願いしている元
捜真小学校校長の天野昭一先生が登壇
された。先生の熱い語りについて舞台
上では来場者有志によるハレルヤコー
ラスの大合唱、宗教主任の祝祷をもつ



Kanto Gakuin Junior and Senior High Schools

A candle light service was held from 6 p.m. on Dec 22nd at Gressitt Memorial Hall. This service was open not only to the teachers, the students, and their parents but also to the graduates and the elementary school students who are considering entering Kanto Gakuin in the following year. Gressitt Hall swarmed with a large number of people waiting for the service to begin. This year's message, which followed a handbell performance and Christmas pageant, was given by Mr. Amano, the former principal of Soshin elementary school. The heartwarming message and wonderful music made a wonderful addition to the school's 2nd semester.



六浦 中学校 高等学校

教務
中村 優子

クリスマス礼拝

学院内の学校、幼稚園でも同様だと思
いますが、六浦中高でもクリスマス
礼拝に大変力を入れています。今年度
も十二月十九日によこすか芸術劇場で
行いました。

クリスマスの準備は六浦祭終了直後
の十一月から始まります。宗教班の中
学生・有志によるページェントや十字
架、高校生による聖書朗読、音楽を担
当する聖歌隊、トーンチャイム、オル
ガンストギルド、吹奏楽を始め、舞台
美術による大道具・小道具の作成、ペ
ージェントで配役の生徒が身につける
衣装の準備、当日のヘルパー等、奉仕



の生徒やそれをサポートする教職員
と、ステージに係わる者だけで二一〇
名を超えます。

ページェントは配役が決まると、昼
休みを利用して練習を行います。場面
に合わせて、ゆっくり静かに動きをつ
けていきます。普段の生活ではあまり
ない動きに、生徒たちは戸惑いつつ、
それでも本番までにはかなり上手にな
ります。十字架は礼拝の後半に、長い
竿の先につけたライトを一人が一本持
ち、吹奏楽の音楽に合わせてステー
ジ上で十字架の形に並ぶものですが、イ
ェス様の誕生と生涯を象徴する素晴ら

Kanto Gakuin Mutsuura Junior and Senior High Schools

The Christmas service was held at Yokosuka Art Theater House on December 19, 2006. The Lord's Nativity was celebrated by the volunteer works of many students under the supervision of faculty members.

Mutsuura Kindergarten
Open space called 'Olive' was opened at the Kindergarten as support for undertaking child rearing entrusted by The City of Yokohama, on December 2, 2006. It is a good place for children to play with younger children.



また、広場のスタッフや小さいお子さんをつれていらっしやる親御さんから「すごいね」「ありがとう」「お兄さん、お姉さん」と声を掛けられて、子ども達はぐんぐんと大きくなった気がしています。広場にいらしている親御さんも、自分の子どもがこんなに大きくなるんだと、将来の姿を見ることができて嬉しいと話してくださいませ。これから地域を大切にしていける幼稚園でありたいと思います。

Kanto Gakuin Noba Kindergarten
The younger Kindergarten children went out in the field digging lots of sweet potatoes in October and the older children then cooked them. The Kindergarten sold these sweet potatoes to raise money for the children in Rwanda.

10月に掘ったさつま芋はメニューを代えておかずやお菓子として登場しました。年長児はスイートポテトを手作り販売し、売り上げはルワンダの子ども達へ届けられました。年中児は焼き芋を。冷たい水での芋洗い、新聞紙とホイール巻きは全園児分を作るため根気のいる作業でした。たき火の中へ入れ、拾い集めた落ち葉を上にかぶせ待つこと30分。「明日もしたい」との合唱が響きました。年少児はさつま芋ごはんをたき、自分で握ったおにぎりは、土ダンゴでみがかれた職人技が光った一品となりました。この他、昨年2月に子ども達が仕込んだみそを使つての芋汁もおいしく食べ



野庭幼稚園

主事 小高千恵

「実りの秋保育も豊かに」

10月に掘ったさつま芋はメニューを代えておかずやお菓子として登場しました。年長児はスイートポテトを手作り販売し、売り上げはルワンダの子ども達へ届けられました。年中児は焼き芋を。冷たい水での芋洗い、新聞紙とホイール巻きは全園児分を作るため根気のいる作業でした。たき火の中へ入れ、拾い集めた落ち葉を上にかぶせ待つこと30分。「明日もしたい」との合唱が響きました。年少児はさつま芋ごはんをたき、自分で握ったおにぎりは、土ダンゴでみがかれた職人技が光った一品となりました。この他、昨年2月に子ども達が仕込んだみそを使つての芋汁もおいしく食べ



ることができました。大豆やさつま芋の「命をいただく」ことだけでなく、協力し合う、分かち合うという心の栄養もからだにうれしく広がりました。保護者参加や講師となつてワークショップ（参加型学習）を行うなど豊かな秋でもありました。「絵の具を楽しまむ」・「ビーズで遊ぶ」・「音はともだちミニコンサート」・「羊毛でつくる」などどれも新しい試みでしたが好評でした。特に羊毛を石鹸に浸して優しく手の中で転がして出来るボンボンは、お家の方へのクリスマスプレゼントと致しました。保護者手作りの子ども達へのクリスマスプレゼントと合体して1つのリースに仕上げた事で喜びも暖かく重なるクリスマスでした。

子育て親支援が話題となつている日本社会の中で、保護者の方々による保育支援がスポットライトを浴びた2学期でした。これは保護者と園とでつくる協働の保育であり、立場・役割の違いを超えて「子どもに仕える」ことの模索を深めてきた結果といえます。大人も子どもも共に育ち合う場として幼稚園が用いられていることに感謝致します。

編集後記

学報No.33を届けたいと思います。いかがでしたか。
横浜開港150周年の年となる2009年に、関東学院は前身の横浜バプテスト神学校が創設された1884年から数えて125周年を迎えます。その年一つの目標として学院事業を展開しております。そこでこの学報も号から編集方針を次のように変更しました。学院の特色を強調する。読者が読みたい記事を大きく取り上げる。読物的性格を強くする。印刷に際して環境に配慮する。具体例としては、表紙・裏表紙に聖書讃美歌、クリスマス礼拝で演奏讃美する中学校高等学校O・C・C・ハンドベルクワイアの写真等を採用しました。大学ラグビー部の大学選手権10年連続決勝進出・6度目の優勝記事を大きく取り上げました。レイアウトを雑誌風にし、記事内容を豊富にしました。環境に配慮して、従来から採用の古紙配合率100%再生紙に加え、大豆インキにより印刷し、紙質も従来よりも薄くしました。
今後皆様にも愛読される誌面づくりを目指します。ご意見ご感想をお寄せください。幸甚です。
(総務部広報課)

学院や学報についてのご意見やご感想をお寄せください。
宛先 〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1 関東学院 法人事務局広報課 電話:045(786)7006
E-mail: kouhou@kanto-gakuin.ac.jp

六浦小学校

教頭 内田光生

クリスマス礼拝とクリスマスページエントをもって、本校は二〇〇六年を締めくくります。次の日から、子ども達は冬休みに入ります。これは、六浦小学校の伝統になっています。クリスマス礼拝・クリスマスページエントは、本校で一番大切な行事の一つです。聖歌隊は三年生以上から、演技者は五年生から、朗読者は六年生から、それぞれ選ばれます。また、全校

クリスマス礼拝・ページエント

に感じる事ができました。そして、遠い場所であっても、イエス様があつてつながる人々がいると実感したひと時でした。



Kanto Gakuin Mutsuura Elementary School
The Christmas service and Nativity pageant is one of the most important annual events held at the school. Through this annual event, every pupil is able to memorize scriptures and hymns by the time they graduate.

児童で歌う賛美歌や一、三年生だけが歌う賛美歌、四、六年生だけが歌う賛美歌も礼拝のプログラムにあります。アドベントをむかえると、クリスマス礼拝・ページエントの練習が本格化します。約三週間毎日放課後に聖歌隊・演技者・朗読者の練習が、先生方の指導のもとに行われます。賛美歌の練習は、聖書・音楽・ホームルームの時間や・全校朝会・礼拝の後に練習します。毎年全学年で礼拝を守るので、六年生は、聖書の箇所や賛美歌をしっかり覚えて、卒業します。

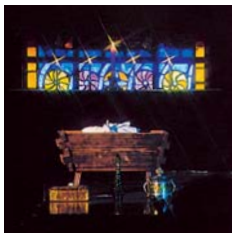


六浦幼稚園

主任 鈴木直江

「小さな子どもと触れ合つて」

国が進めている子育て支援事業「つどいの広場」を横浜市からの委託を受け、十二月二日、関東学院 親と子の広場「おりいぶ」がオープンしました。0歳～3歳までの親子が、週三日（月・木・土の九時～十四時）集つてくる居場所が、幼稚園の中にできたの



です。月曜日と木曜日は、幼稚園の子ども達も広場に参加することが出来ます。初めて広場を訪ねた時は、普段と違う雰囲気、おとなしかった子ども達もだんだん馴染んでくると、おもちゃを触り始めたり遊んでいる小さな赤ちゃん達に近づいていくようになりました。「かわいい」「〇〇したいの?」「これ使う?」などと子ども達の方から声をかけて、一緒に遊び始める姿が見られるようになりました。きょうだいのいない子どもにとっては、初めての経験をたくさんしています。



主な学校行事予定 (4月～9月)

	大学	高等学校	六浦高等学校	中学校	六浦中学校	小学校	六浦小学校	六浦幼稚園	野庭幼稚園
4	1(日)～4(水) 新生オリエンテーション(学部) 1(日) 履修指導(大学院) 2(月) 入学式 3(火)～4(水) 履修指導(大学院) 3(火)～4(水) オリエンテーション(法科大学院) 5(木) 春学期授業開始	5(木) 始業式 9(月) 高校全体香柏会 10(火) 高校イースター礼拝 12(木) 高校県下一斉テスト 14(土) 香柏会総会・香柏会全体委員会 18(水) 高校生徒会役員選挙 20(金) 全校健康診断 21(土) 高校総体開会式	9(月) 始業式 12(木) 高校県下一斉試験 19(木) 健康診断 20(金) 生徒会講演会・生徒会選挙	5(木) 始業式・入学式 6(金) 中学全体香柏会 9(月) 中学イースター礼拝 14(土) 香柏会総会・香柏会全体委員会 20(金) 全校健康診断・中学生徒総会	5(木) 入学式 6(金)・7(土) 中1ガイダンス 7(土) クラブ紹介 9(月) 始業式 19(木) 生徒健康診断(授業なし) 20(金) 生徒会講演会・生徒会選挙	5(木) 入学式 6(金) 始業式・オリエンテーション 9(月) 身体測定 13(金) イースター礼拝 27(金) 1年生小遠足	5(木) 始業式 6(金) 入学式 9(月) 身体測定 11(水) イースター礼拝 12(木) 眼科検診 18(水) 心電図検診(1・5年) 19(木) 歯科検診 23(月) 防犯教室 26(木) 1年生交通安全教室 28(土) 授業参観・親子方面別集会・しおん会総会	10(火) 進級式 11(水) 入園式 12(木) クラス懇談会 13(金) イースター礼拝 16(月)～ろばの子会(預かり保育)開始 16(月)～19(木) 個人面談 17(火)・24(火) 教育相談 20(金) おりぶ会(保護者会)総会 25(水) 誕生会	9(月) 入園式(AM)・進級式(PM) 11(水)・12(木)・13(金) 保護者連絡会 11(水) イースター礼拝 16(月)～23(月) 個人面談 23(月) わかば会(保護者会)総会 25(水) 誕生会 26(木) 内科検診
5		9(水) 高校母の日礼拝 12(土) 香柏会スポーツ大会 15(火)～18(金) 中間試験 25(金) 高校球技大会	2(水) 生徒会総会 8(火)～12(土) 高2研修旅行 8(火) 高3卒業写真撮影 9(水) 高1薬物乱用防止教室 9(水)・11(金) 高3三者面談 11(金) 高1一日研修会 17(木) 眼科検診 28(月)～30(水) 中間試験(高3) 29(火)・30(水) 中間試験(高1・2)	2(水) 中1ヨコハマベイエリアウォーク 8(火) 中学母の日礼拝 12(土) 香柏会スポーツ大会 15(火)～18(金) 中間試験 16(水) 中1保護者対象クラブ活動説明会	2(水) 生徒会総会 8(火)～11(金) 中2自然教室 9(水)～12(土) 中1オリエンテーション 17(木) 眼科検診 29(火)～30(水) 中間試験	2(水) 全校遠足 10(木) 母の日礼拝 22(火) 漢字計算テスト 25(金) ヘンテコステ礼拝 26(土) 親子の集い 30(水) 内科検診	2(水) 1年生歓迎遠足 9(水) 身体測定(1年生) 10(木) 耳鼻科検診(上学年)・校内見学会1 11(金) 身体測定(1年生)・母の日礼拝 17(木) 耳鼻科検診(下学年) 26(土) 運動会 31(木) 防犯訓練	2(水) なかよし会 8(火)・15(火)・22(火) 教育相談 9(水) 一年生同窓会 9(水)・23(水) バイブルクラス 11(金) 母の日礼拝 15(火) 年長組クラス懇談会 16(水) 誕生会 18(金) 年中組クラス懇談会 22(火) 年少組クラス懇談会 24(木) 春の遠足	1(火) 年長児保育参加 14(月) わかば会 15(火) 家族の日礼拝 17(木) 歯科検診 18(水) 親子遠足 23(水) 誕生会 24(木)・25(金) 身体測定 28(月) バイブルクラス 30(水) 座談会(4・5月) 30(水) こひつじひろば(未就園児の集い) 31(木)・6/1(金) 年中児・年少児保育参観
6	3(日) 創造祭 11(月) 学生自治会定期総会	3(日)～7(木) 高2研修旅行(中国コースのみ) 4(月)～6(水) 高1・3修養会 5(火)～8(金) 高2研修旅行(中国コース以外) 14(木) 高校花の日礼拝 28(木) 全校眼科検診	2(土) 漢字検定 7(木) 耳鼻科検診(高1) 9(土) 英語検定 13(水) 春季特別伝道礼拝(花の日) 16(土) 数学検定 14(木) ダンス発表会 21(木) 芸術鑑賞会 30(土) オープンキャンパス	4(月)～6(水) 中2研修旅行(前半組) 5(火)～7(木) 中2研修旅行(後半組) 中3研修旅行 6(水)～8(金) 中1修養会 13(水) 中学花の日礼拝	2(土) 漢字検定 9(土) 英語検定 13(水) 春季特別伝道礼拝(花の日) 16(木) 数学検定 21(木) 芸術鑑賞会 30(土) オープンキャンパス	2(土) 漢字検定 4(月) 春の屋内なかよし会 8(金) 花の日礼拝 9(土) 学校説明会 20(水) 学力テスト 25(月)～27(水) 5年生緑の学校 27(水)～29(金) 6年生緑の学校	5(火) 院内学校説明会 8(金) 花の日礼拝 12(火) 校内見学会2 14(木) 内科・水泳検診(下学年) 15(金) 学校説明会1 21(木) 内科・水泳検診(上学年) 25(月) 水泳開始 29(金) 校内見学会3	1(金)・4(月)・5(火) 身体測定 5(火) 講演会 7(木) 歯科検診 12(火) 花の日礼拝 12(火)・19(火)・26(火) 教育相談 13(水)・27(水) バイブルクラス 14(木) 内科検診 20(水) 誕生会 22(金) 避難訓練 23(土) 2～4年生同窓会 26(火) 大里先生をお招きして	4(月) わかば会コンサート 11(月) 大里先生報告会 12(火)・13(水) 子どもの日礼拝・訪問 13(水) こひつじひろば 14(木) ひとみ座人形劇① 16(土) プレイデー(おうちの方と遊ぼう) 20(水) 誕生会 20(水)～27(水) 個人面談 23(土) 1年生同窓会 25(月) バイブルクラス 27(水) こひつじひろば
7	<学部・法科大学院> 16(月) 春学期授業終了 16(月) 海の日(授業日) 17(火)～23(月) 補講及び春学期定期試験 24(火)～30(月) 春学期定期試験 31(火)～9/20(木) 夏期休業 <大学院> 16(月) 海の日(授業日) 23(月) 春学期授業終了 24(火)～30(月) 補講 31(火)～9/20(木) 夏期休業	3(火)～6(金) 期末試験 9(月)～11(水) 答案返却日 21(土) 夏期休業開始	5(木)・6(金)・9(月)・10(火) 期末試験(高1・2) 6(金)・9(月)・10(火) 期末試験(高3) 10(火) ボランティア活動 12(木) 球技大会 17(火) 答合せ 20(金) 終業式	3(火)～6(金) 期末試験 20(木) 平和祈願礼拝 21(金) 夏期休業開始 21(金)～25(水) 希望制夏期講習(前期) 指名制夏期講習(前期)	6(金)・9(月)・10(火) 期末試験 13(金) 球技大会 17(火) 答合せ 20(金) 終業式	2(月)～4(水) 3・4年生緑の学校 10(火)～11(水) 2年生緑の学校 11(水)～12(木) 1年生緑の学校 20(金) 終業式 25(水)～31(火) 6年補習	3(火)～6(金) 自然学校(6年生・清里) 4(水)～6(金) 自然学校(4年生・軽井沢) 5(木)～6(金) 自然学校(2年生・箱根) 9(月) 校内見学会4 10(火)～13(金) 自然学校(5年生・那須) 11(水)～13(金) 自然学校(3年生・中伊豆) 12(木)～13(金) 自然学校(1年生・城ヶ島) 14(土) アブラハムの会 20(金) 授業終了 21(土) 夏休み・夏のタペ 23(月)～26(木) 水泳指導	3(火)～6(金) 個人面談 3(火)・10(火) 教育相談 4(水) 7月誕生会 7(土) 講演会 11(水) 8月誕生会 16(月)～17(火) お泊り会 19(木) 1学期終了	2(月) わかば会 4(水) 誕生会 4(水) こひつじひろば 11(水) 座談会(6・7月) 12(木)・13(金) 年長児お泊り会 18(水) 誕生会 20(金) 終業式 23(月)～8/31(金) 夏期シャローム(預り保育)
8	<学部・法科大学院> 1(水)～10(金)、16(木)～17(金) 夏期集中講義期間 19(日) ふれあい祭り(予定)	19(日)～26(日) ハワイ島理科研修	1(水)～14(火) 海外研修 4(土)～7(火) サマーキャンプ 17(金)～20(月) ボランティアキャンプ 23(木)～29(水) 補講	29(水)～9/1(土) 希望制夏期講習(前期) 指名制夏期講習(前期)	1(水)～14(火) 海外研修 4(土)～7(火) サマーキャンプ 17(金)～20(月) ボランティアキャンプ	28(火)～31(火) プール開放・6年補習	16(木)～22(水) 第6回タイ訪問団	1(水)～24(金) ろばの子会(預かり保育)	2(木)・9(木)・16(木)・23(木) プール・園庭開放 28(火) 夏のタペ
9	18(火)～20(木) 秋学期オリエンテーション(学部) 20(木) 春学期卒業式・学位授与式 21(金) 秋学期授業開始 24(月) 振替休日(授業日)	5(水) 二学期授業開始 7(金) 高校人権を考える礼拝 24(月) 公開授業	1(土) 始業式	3(月) 教職員修養会 5(水) 二学期授業開始 中学学力テスト 6(木) 中学人権を考える礼拝 24(月) 公開授業	1(土) 始業式 10(月)～13(木) 中3研修旅行 26(水) 中1中2社会見学 29(土) 学校説明会	3(月) 始業式 4(火)～7(金) 夏休み作品展 8(土) 院内入試・学校説明会 10(火) 学力テスト 11(火) 神奈川県私立小学校音楽会 29(土) 秋の屋外なかよし会	3(月) 授業開始・避難訓練 8(土) 学校説明会2 10(月)～12(水) 身体測定 11(火) 県私立小学校音楽会 25(火) 前期終業式 25(火)～27(木) 個人面談	4(火) 2学期始まり 5(水) 総合避難訓練 6(木) ろばの子会(預かり保育)開始 6(木)・7(金)・10(月) 身体測定 11(火)・18(火) 教育相談 12(水) 誕生会 12(水)・26(水) バイブルクラス 19(水) 講演会 24(月) うんどう会 28(金) 交通安全指導	4(火) 始業式・防災引取訓練 6(木)・7(金) 身体測定 12(水) 誕生会 12(水) こひつじひろば 22(土) 運動会 26(水) 座談会(8・9月)

Main Annual School Events (from April, 2007 to September, 2007)
Kanto Gakuin University, Kanto Gakuin Senior High School, Kanto Gakuin Mitsuura Senior High School, Kanto Gakuin Junior High School, Kanto Gakuin Mitsuura Junior High School, Kanto Gakuin Elementary School, Kanto Gakuin Mitsuura Elementary School, Kanto Gakuin Mitsuura Kindergarten and Kanto Gakuin Noba Kindergarten

人にたれ
奉仕せよ



関東学院大学

〒E045-781-2001□-

●金沢八景キャンパス

〒E045-781-2001

経済学部（昼夜開講制）
工学部（昼夜開講制）
人間環境学部
大学院（経済学研究科・工学研究科）
専門職大学院〔法科大学院〕（法務研究科）

●金沢文庫キャンパス

〒E045-786-7179

文学部
大学院（文学研究科）

●小田原キャンパス

〒E0465-34-2211

法学部
大学院（法学研究科）

関東学院中学校高等学校

〒E045-231-1001

関東学院小学校

〒E045-241-2634

関東学院六浦中学校高等学校

〒E045-781-2525

関東学院六浦小学校

〒E045-701-8285

関東学院六浦幼稚園

〒E045-781-0170

関東学院野庭幼稚園

〒E045-845-0876

学校法人

関東学院

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1

法人事務局 〒E045-786-7028（代）

<http://www.kanto-gakuin.ac.jp/>

環境に配慮して

